

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

滋賀県 東近江市

自治体名 : 滋賀県東近江市

担当課名 : 教育委員会事務局 学校教育課

電話番号 : 0748-24-5671

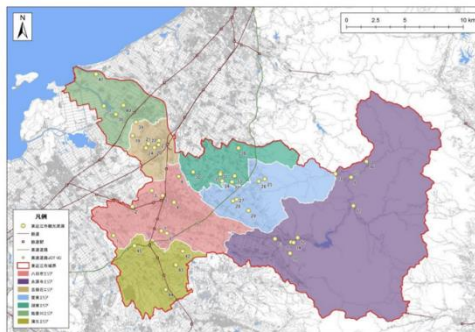
1.自治体の基本情報

基本情報

面積	388.37 km ²
人口	111,349 人
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	3,152 人
部活動数	94 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	「東近江市立中学校部活動のあり方及び地域連携検討委員会」 設置 済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定 予定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市は東の鈴鹿山脈から西の琵琶湖までが一つの市街で、総面積は388.37km²と広大であり山林と田畑の割合が78.8%ある。市内には生徒数200人未満の中学校が3校、200人以上500人未満の中学校が4校、500人以上の中学校が2校、計9校が設置されているが、生徒のスポーツ・文化芸術活動を取り巻く環境は大きく異なる。

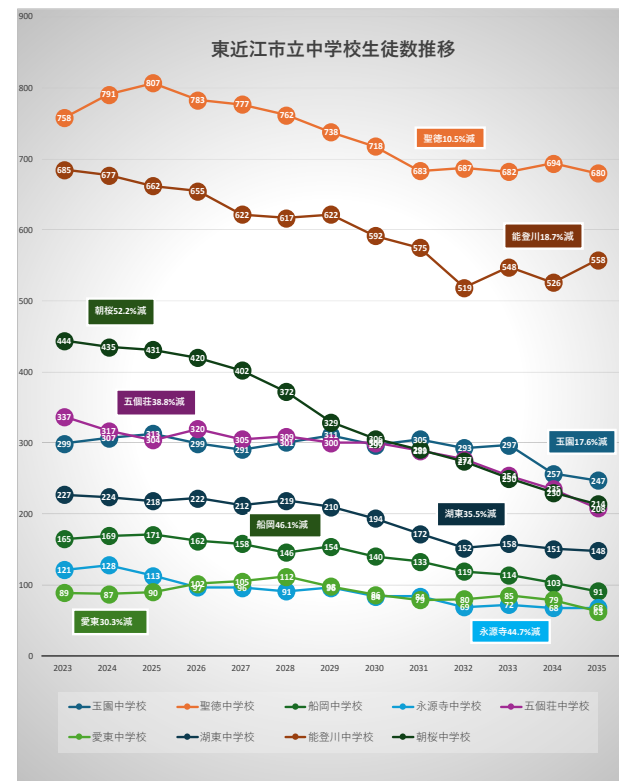


生徒数は、平成25年度(2013)と比べると約350人減少しており、令和6年(2024)5月1日現在、3,152人である。平成25年度(2013)の年齢人口から推計した令和17年(2035)の生徒数は2,277人となり、今後10年間で約850人減少(27.7%)することが予想される。50%以上減少する中学校が1校、40%以上減少する中学校が2校、30%以上減少する学校が3校、実に2/3の中学校で30%以上生徒数が減少する。

少子化の進展により、生徒数の減少、学校部活動設置数の減少、指導者の不足、合同チーム出場数の

増加など、部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっている。

部活動の教育的意義や役割を継続し、持続可能な学校部活動の形態を探るとともに、地域クラブ活動へ移行することにより、地域での多様な体験や地域の人との豊かな交流等を通じて、新しい価値を創出していかなければならない。

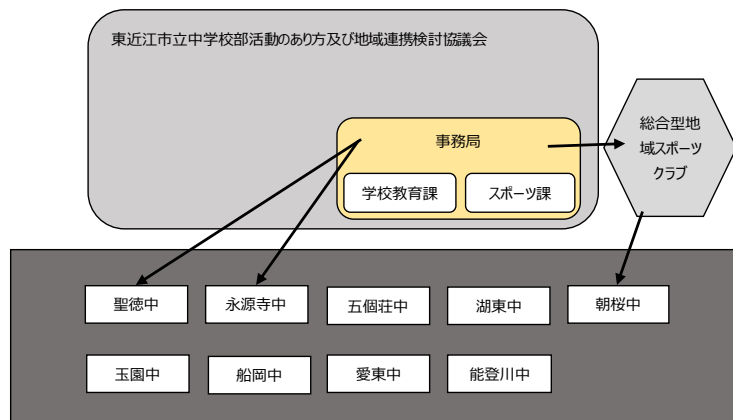


2.実証内容

(運営体制・スケジュール)

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会(学校教育課・生涯学習課)

- ア) 学校部活動の教育的意義や役割を継承・発展させつつ、持続可能な部活動運営を整備する。
- イ) 部活動指導員、協働活動支援員、ボランティア等を含め地域の人材を活用し、積極的に地域連携を進める。
- ウ) 今後、減少していく生徒数とそれに伴う教員数の減少を見据え、各中学校における適切な部活動の配置数を検討する。

◎市長部局(スポーツ課)

- ア) 中学生が参加できる地域クラブ活動及び運営団体の設立とその後の運営など、地域スポーツ環境の整備を進める。
- イ) スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、民間団体が実施する様々なスポーツ活動の中学生受け入れの普及を進める。

年間の事業スケジュール

令和6年4月	地域スポーツクラブ実証事業スタート
令和6年5月	第1回検討協議会開催
令和6年8月	第2次中学生対象スポーツ少年団団員募集
令和6年8月	第2回検討協議会開催
令和6年10月	総合型地域スポーツクラブによる放課後スポーツ体験教室計画
令和6年12月	第3回検討協議会開催
令和7年1月	小学6年生対象部活動及び地域スポーツ・文化活動に関するアンケート実施
令和7年1月	総合型地域スポーツクラブによる放課後スポーツ体験教室実施
令和7年2月	検討協議会実績報告書作成
令和7年2月	第4回検討協議会開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		・コムスポようかいち もみじの郷バドミントン倶楽部 ・西澤バスケットボール教室
	B：部活動にはない種目など、新規のクラブ数		無
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

中学校名	クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
永源寺中	コムスポようかいちもみじの郷バドミントン倶楽部	検討協議会事務局	バドミントン	・平日 1回 ・休日 2回/月	・平日 18:30~20:30 ・休日 11:00~12:30	中1 0人 中2 11人 中3 2人	通年	1人	3人 (内、兼務0人)	10,800円 /年額	不参加
聖徳中	西澤バスケットボール教室	検討協議会事務局	バスケットボール	・平日 3回 ・休日 0回	・平日 17:00~18:30	中1 8人 中2 8人 中3 0人	通年	1人	0人	12,000円 /年額	不参加

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 実施無し

2.実証内容

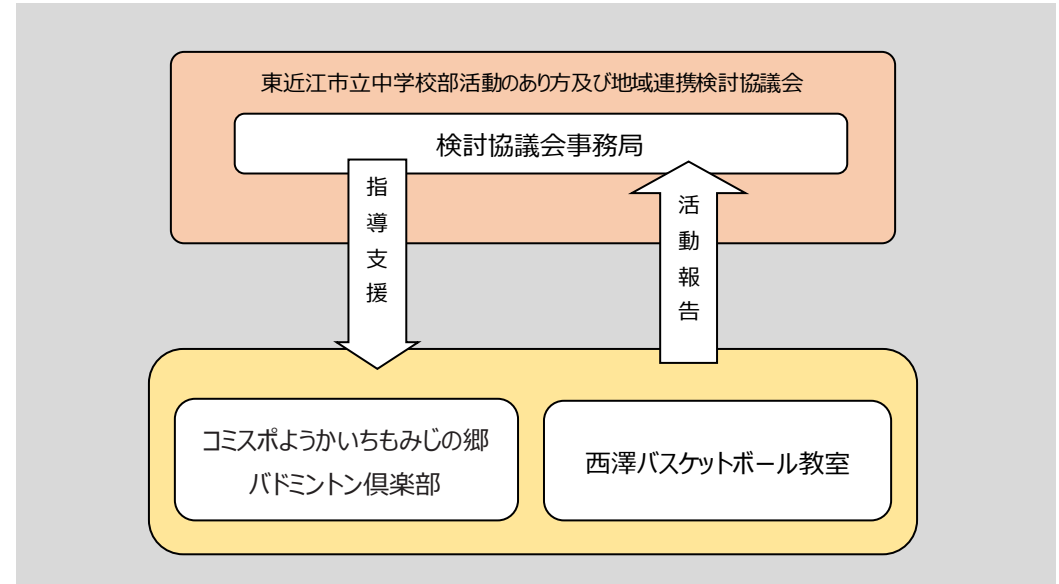
(実証事業実施団体①)

主な取組例

●地域スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、バスケットボール
運営団体名	検討協議会事務局
期間と日数	バドミントン：4月1日～3月31日 月6回程度 バスケットボール：4月1日～3月31日 月12回程度
指導者の主な属性	教職員
活動場所	永源寺中学校体育館 聖徳中学校体育館
主な移動手段	自転車 or 保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	バドミントン：10,800円 バスケットボール：12,000円 (保険代800円含む)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

■指導者 2名

役割：実技指導を行う

■運営補助者 3名

役割：指導補助及び会場準備、解錠・施錠を行う

2.実証内容

(近隣市町との情報交換)

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

他自治体との情報交換

取組1

●近隣市町との情報交換会
【東近江市、日野町、竜王町、
甲賀市、湖南市】

令和6年10月15日(火)
会場:日野町教育委員会
令和7年2月19日(水)
会場:日野町教育委員会

取組2

●竜王町との個別情報交換

令和6年7月25日(木)
会場:東近江市教育委員会
令和6年9月17日(火)
会場:竜王町教育委員会

取組3

●多賀町との個別情報交換

令和6年5月7日(火)
会場:東近江市教育委員会
令和6年10月16日(水)
会場:東近江市教育委員会

取組4

●愛荘町との個別情報交換

令和6年9月12日(木)
会場:東近江市教育委員会

情報交換内容

- 部活動地域移行の情報を定期的に発信する「地域情報紙」の、内容や活用を共有する。
- 地域クラブ活動移行に向けた方針を作成している自治体の、作成に至るまでの行程を共有する。
- 生徒数の減少が少ない自治体では、部活動を継続している。

今後の課題と対応方針

- 1市町1中学校での地域移行は、地域の特色に合った拠点校部活動や地域スポーツクラブを整備しやすい。
一方、生徒が希望するスポーツ・文化活動を保障することが困難である。
- 資金は、国・県・市町・スポーツ振興団体等からの補助金や助成金、寄付金、協賛金、会員の会費であるが、やはり、財源の見通しが立たない。

2.実証内容

(実証事業課題)

総括・成果の評価・今後に向けて

●課題

・適切なスタッフの配置

地域クラブ活動を持続可能にするための最大の課題は、スタッフ(指導者等)の確保である。責任者や指導者として3名以上で構成することが理想であり、18才以上の成人で(高校生は除く)あることが望ましい。

今年度、東近江市で取り組んだバドミントンクラブでは、指導者1名、補助スタッフ3名での運営であったが、業務のほとんどを指導者が行なった。バスケットボール教室では指導者が指導を含めすべての業務を担った。

スタッフは自分の仕事を調整しつつ、運営や指導時間を生み出している。学校部活動で教職員が担ってきた状況を、地域クラブ活動の指導者が担っている。持続可能な地域クラブ活動運営と指導者自身の健康管理のためにも、適切なスタッフの配置が必要である。

・財源の確保

本市が実施した令和5年度のアンケートによると、一ヶ月に負担する地域スポーツクラブ費用として3,000円未満が適当であると70%の保護者が回答している。

令和6年度、総合型地域スポーツクラブから誕生したバドミントンクラブや地域の指導者が誕生させたバスケットボール教室では、受益者負担を一ヶ月1,000円程度にしているが、ほとんどを施設借用費と消耗品費に充てている。報償費は生まれず、指導者やスタッフはボランティアである。

持続可能な運営には、東近江市総合計画基本構想公的資金の投入が不可欠である。

●目指す地域クラブ活動

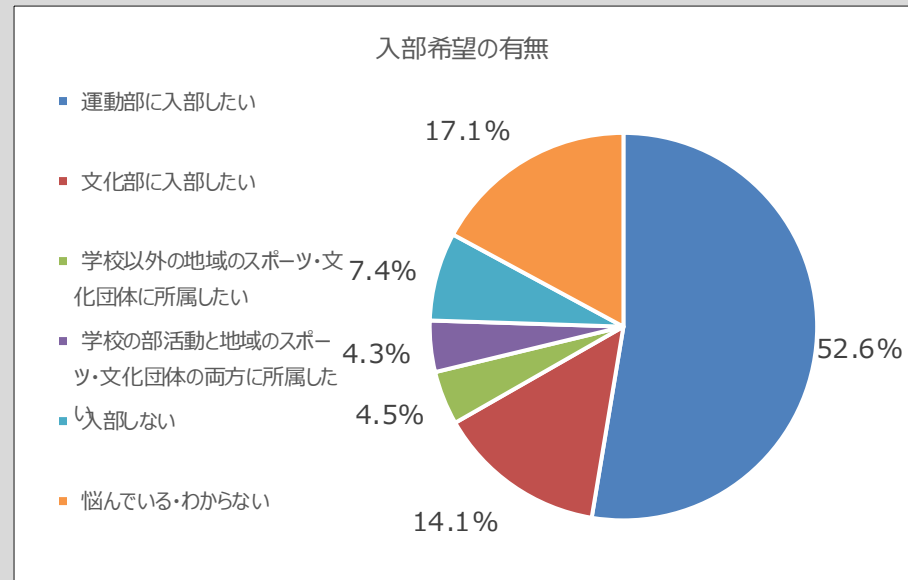
- ①参加者一人ひとりに応じた、適切な活動を保証できる地域クラブ活動
- ②参加者が安全に活動できる地域クラブ活動
- ③スタッフの配置と財源の確保を安定化させた持続可能な地域クラブ活動

2.実証内容

(地域スポーツ・文化活動に関するアンケート①)

小学校6年生対象 部活動及び地域スポーツ・文化活動に関するアンケート結果 1

Q.中学校の部活動に入部しようとする目的は何?



Q.「入部しない」「悩んでいる・わからない」と回答した理由は何?

入部しない理由

- 「地域スポーツクラブに所属を決めているから」 (25.1%)
- 「習い事を優先したい。部活動に入ると習い事ややりたいことの時間がなくなってしまうから」 (12.3%)
- 「部活動の種類が少なく、やりたいと思う部活動がないから」 (11.7%)

悩んでいる理由

- 「どんな部活動があるかわからないから決められない。まだ自分がやりたい部活動がわからない」 (19.0%)
- 「自分に合った部活動を体験してから選ぶ」 (12.3%)

Q.部活動や地域スポーツ・文化活動で悩んでいること・心配していることは何?

- 1.先輩や友達との人間関係やいじめを心配している (37.0%)
- 2.自分の技術や体力、怪我を心配している (19.9%)
- 3.活動日、休養日、活動時間について心配している (21.0%)

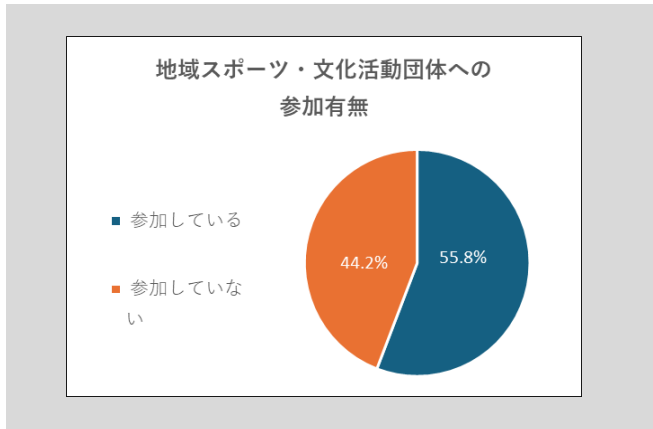
この3点の記述で77.9%を占める

2.実証内容

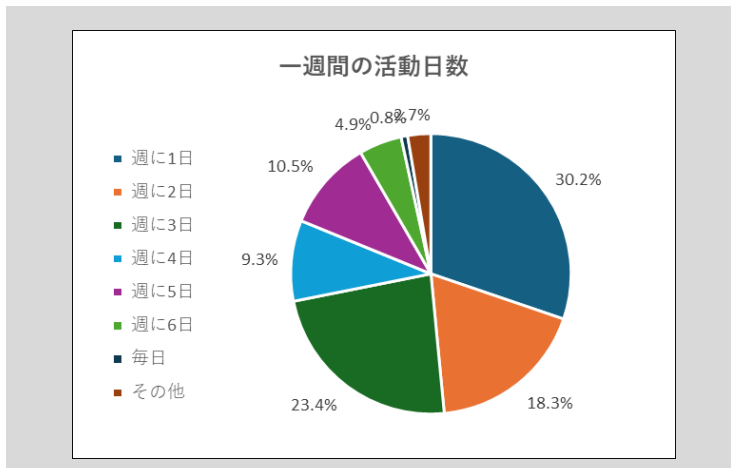
(地域スポーツ・文化活動に関するアンケート②)

小学校6年生対象 部活動及び地域スポーツ・文化活動に関するアンケート結果 2

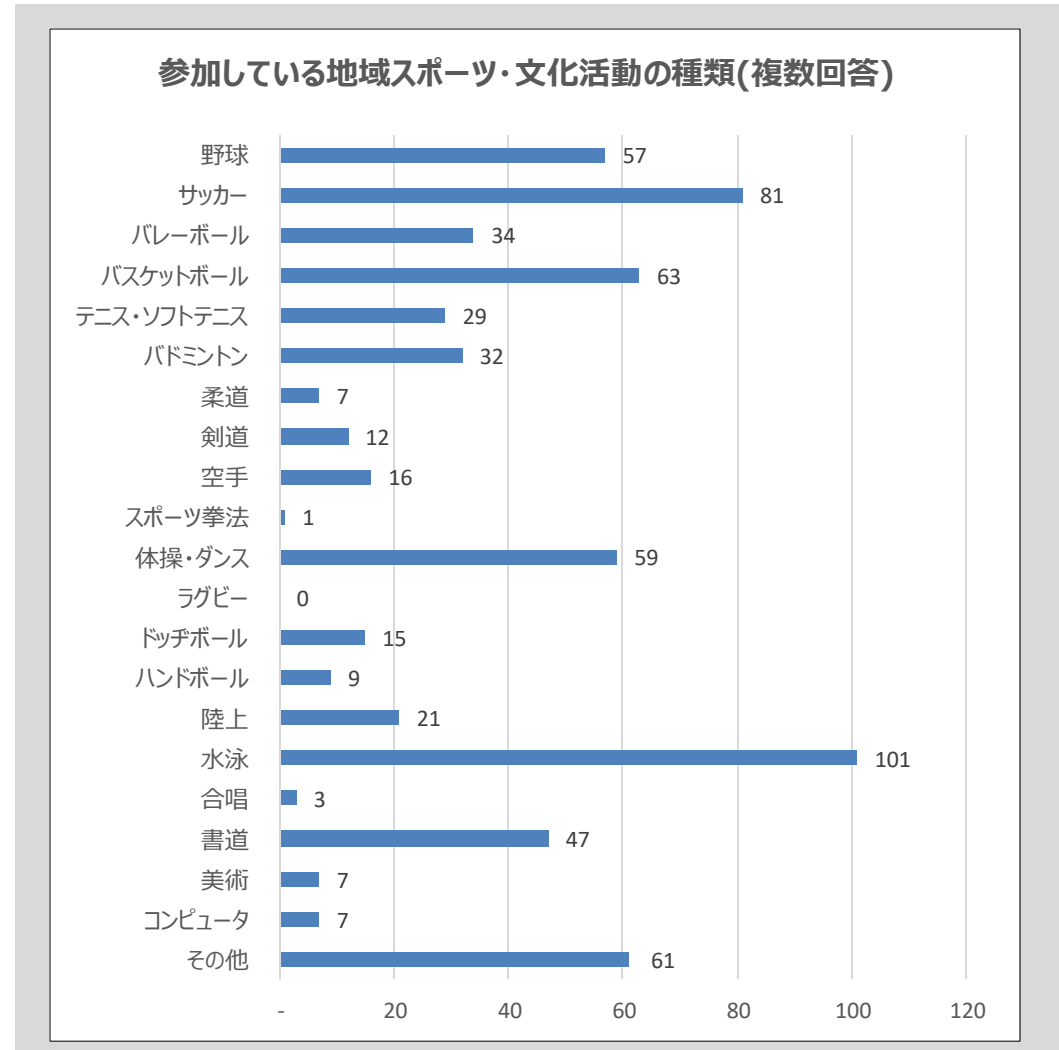
Q.現在、地域スポーツ文化活動団体に参加しているか?



Q.一週間の活動日数は何日?



Q.参加している地域スポーツ・文化活動の種類は何?



2.実証内容

(実証事業実施団体②)

活動写真

コミスポようかいち
もみじの郷
バドミントン倶楽部



西澤バスケットボール教室



2.実証内容


(中学生が参加できる地域スポーツ・文化活動の例)

中学生対象スポーツ少年団 団員募集



団員募集中

活動場所等の詳細はこちらから確認してください。



すべてのチームが中学生対象です。興味のある方は、お気軽に事務局までお問合せください。

軟式野球	柔道
湖東野球クラブ	八日市柔道
サッカー	愛東柔心会
玉園FC	蒲生柔道
能登川フットボールクラブ	剣道
永源寺JFC	八日市少年剣道クラブ
八日市FC2002	永源寺剣道
バレーボール	五個荘洗心館
八日市VSC	湖東錬心館剣道
やまびこクラブ	能登川剣道精錬館
近江ガッツ	てらこ屋学道館剣道部
バドミントン	空手道
のとがわJr.SC	正剛館空手東近江支部
コムスポ∞ジュニアバドミントン	八日市空手
バスケットボール	能登川空手
GENESIS	桜塾東近江
ソフトテニス	箕作空手
八日市若草ソフトテニス	タグラグビー
八日市ソフトテニス	イーストレイラグビースクール
東近江ソフトテニス	蒲生野RAD
蒲生ソフトテニス	体操
少林寺拳法	八日市ウイズ体操クラブ
少林寺拳法湖東	ドッジボール
スポーツ拳法	Rush
東近江スポーツ拳法	ハンドボール
	東近江ハンドボールクラブ

【お問合せ】 東近江市スポーツ少年団事務局 (東近江市文化スポーツ部スポーツ課)
〒527-8527 東近江市八日市緑町10番5号 電話 0748-24-5674 IP 050-5801-5674

放課後スポーツ体験教室 募集



朝桜
中学生
限定

放課後 スポーツ体験 教室

朝桜中学校限定 全年齢対象

- **日程**
1月21日(火)、29日(水)
2月5日(水)、12日(水)、17日(月)、26日(水)
3月5日(水)、12日(水) 全8回
※授業が5限で終わる部活動のない日
- **時間**
午後3時から午後4時45分まで
- **参加料**
2,000円/全8回(保険料含む。)
※1回目の参加時にお支払いください。
※途中参加可能(@250円×残り回数分)
- **講師**
びわこ学院大学4回生等
- **定員**
40名(先着順)



主催
あかねスポーツクラブ
協力
びわこ学院大学 朝桜中学校
東近江市文化スポーツ部スポーツ課

会場 蒲生体育館又は蒲生コミュニティセンター

● 内容



特定のスポーツは行わず、ニュースポーツやレクリエーションなど身体を動かすことが楽しくなるメニューを用意しています。
※動きやすい服装で来てください。

- **申込方法**
専用の申込フォームからお申込みください。
- **申込期間**
令和7年1月6日(月)から1月20日(月)まで

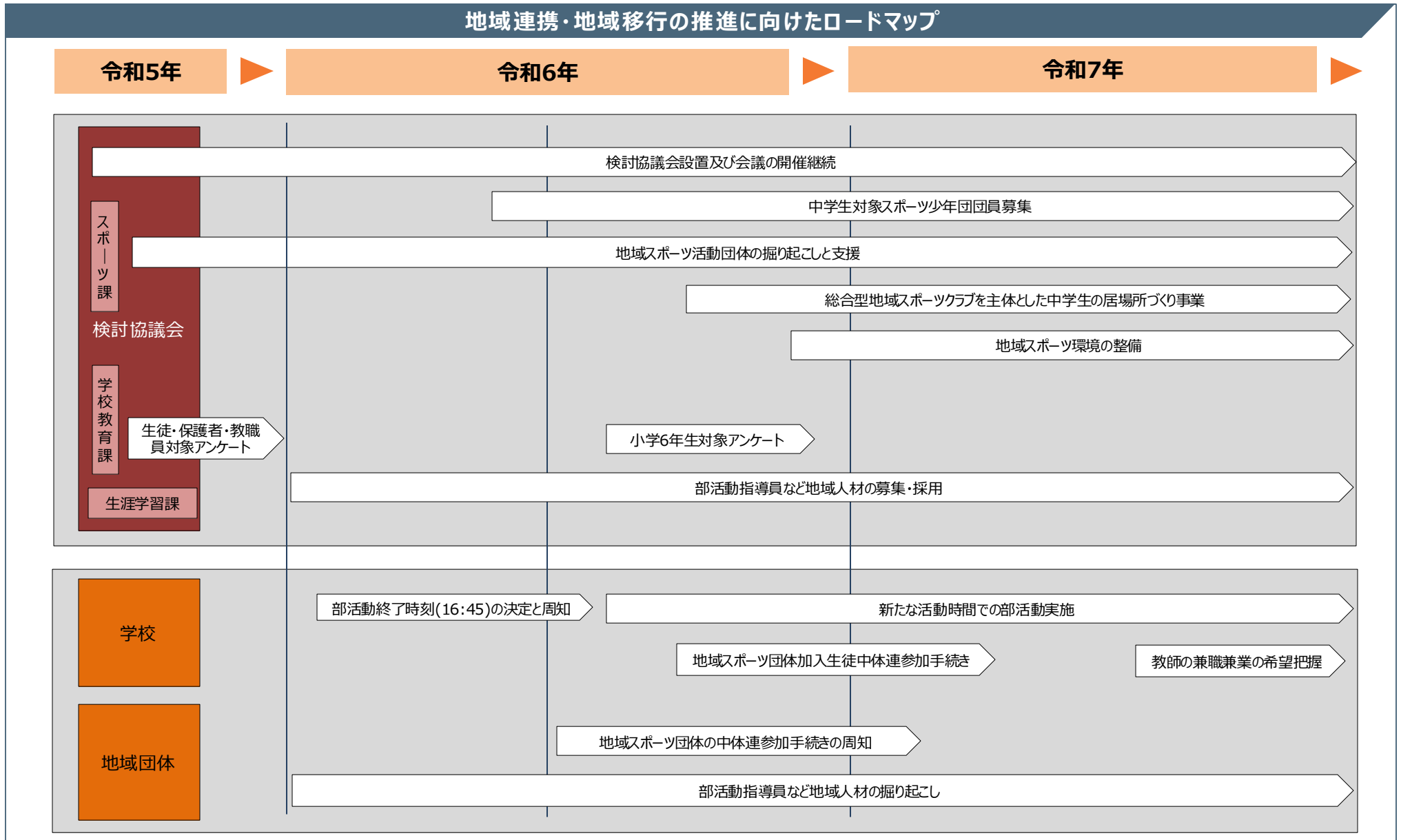


問合せ先

総合型地域スポーツクラブ **あかねスポーツクラブ**
〒529-1531 東近江市市子川原町679
akane.sportsclub@gmail.com

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

滋賀県 米原市

自治体名： 滋賀県米原市

担当課名： 米原市教育委員会事務局 学校教育課

電話番号： 0749-53-5152

基本情報

面積	250.5 km ²
人口	36,933 人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	1,025 人
部活動数	41 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	令和6年度策定予定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

○子どもたちの活動環境について

本市では、全体の87%の生徒が部活動に加入しており、各校で充実した活動を進めている。しかし、団体競技を中心に十分な人数を確保できず、活動に苦慮している現状がある。また、小規模校が多く、各校で開設されている部活動数に大きな差がある。今後、少子化に伴いこのような状況がさら加速すると予想され、将来的に子どもたちのスポーツ・文化芸術活動に親しむための環境が損なわれる可能性が高い。

○地域団体や地域指導者の確保と連携体制の構築

地域展開の受け皿となり得る地域団体や専門的な知識や技術を有する地域指導者の確保や地域団体等との連携体制を構築する必要がある。

○生徒・学校・地域への理解促進について

部活動の地域展開については、生徒やその保護者、学校、地域団体が一体となり取組を進める必要があり、その気運の醸成に向けて様々な方策を講じる必要がある。



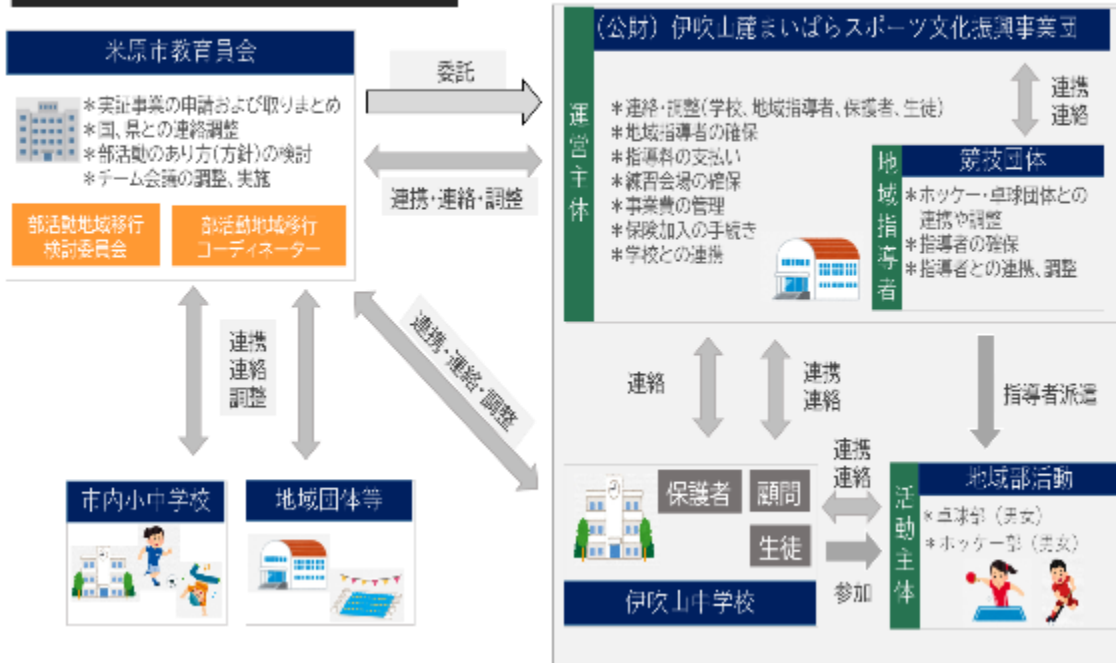
「今後の米原市の中学校生徒の推移」

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

米原市 地域部活動実施活動体制



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- 学校教育課
 - ・実証事業の申請および取りまとめ。
 - ・国、県、受け皿となる団体との連絡調整 * 契約関係
 - ・チーム会議の調整、実施
 - ・部活動地域移行検討委員会の運営
- スポーツ推進課
 - ・地域団体との連絡調整
- 生涯学習課
 - ・地域団体との連絡調整

年間の事業スケジュール

令和6年4月	地域団体との連絡調整
令和6年4月	伊吹山中学校への協力依頼および協議
令和6年5月	PTA総会（周知活動）・保護者説明会
令和6年5月	実証事業の開始
令和6年6月	市内総合型スポーツクラブ等への訪問
令和6年6月	運営主体との意見交換
令和6年8月	第1回米原市部活動地域移行検討委員会
令和6年9月	部活動地域移行に関するアンケートの実施
令和6年10月	市内中学校との意見交換
令和6年10月	活動主体、運営主体との意見交換
令和6年11月	第2回米原市部活動地域移行検討委員会
令和6年12月	米原市総合型スポーツクラブ連絡協議会への参加
令和7年1月	第3回米原市部活動地域移行検討委員会
令和7年2月	第4回米原市部活動地域移行検討委員会
令和7年3月	活動主体・運営主体との意見交換

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（4部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
公益財団法人 伊吹山麓まい ばらスポーツ文 化振興事業団	公益 財団 法人	男子卓球 女子卓球 男子ホッケー 女子ホッケー	月3回	祝日を含めた 休日	卓球 1年11人 2年16人 3年10人 ホッケー 1年17人 2年9人 3年17人	5月 ～ 2月	卓球 伊吹山中 学校体育 館 ホッケー 米原市伊 吹第1グラ ウンド等	卓球 7人 ホッケー 4人	2人	年会費 1,000円	中体連

2.実証内容と成果

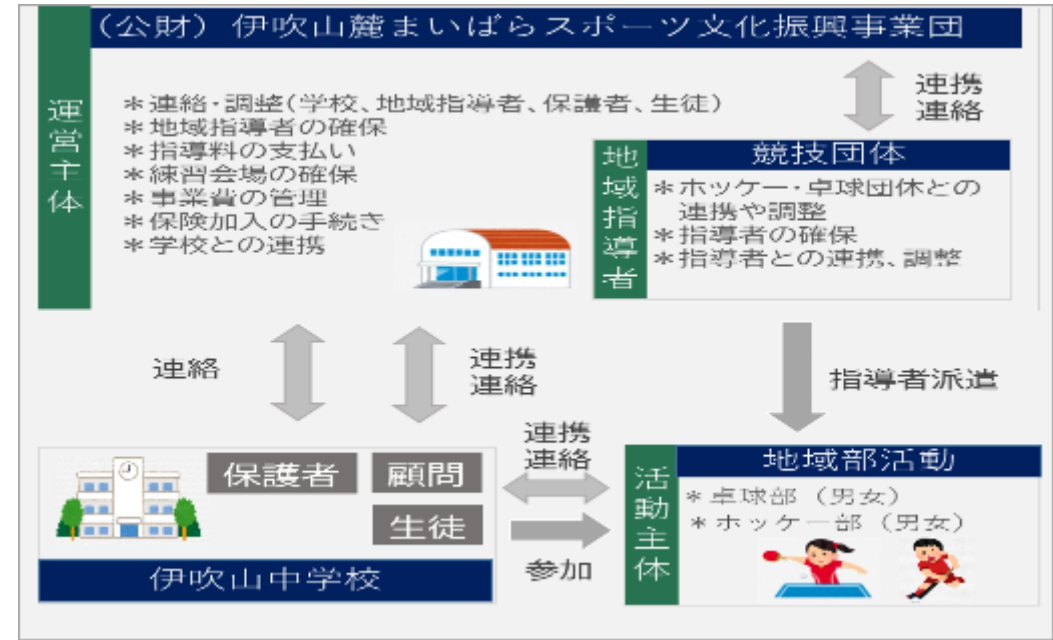
主な取組例

● (公益財団法人)

伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男子卓球・女子卓球 男子ホッケー・女子ホッケー
運営団体名	(公益財団法人) 伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団
期間と日数	・5月25日～2月28日
指導者の主な属性	競技団体 (米原市卓球協会、滋賀県ホッケー協会)
活動場所	卓球 伊吹山中学校体育館 ホッケー 伊吹山中学校グラウンド 米原市伊吹第1グラウンド、OSPホッケースタジアム
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者による送迎等
1人あたりの参加会費等 (年額)	卓球、ホッケーともに保険代のみ
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図 (地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 運営責任者

役割：学校や指導者との連絡、調整・地域指導者の確保・指導料の支払い
練習会場の確保・事業費の管理・保険加入の手続き・学校との連携

● 主任指導者

役割：指導者の確保・指導者との連絡調整・技術指導

● 地域指導者

役割：技術指導

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○運営団体・実施主体の体制整備の取組について

休日の地域クラブ活動の実施に向けて、地域団体と学校の運営体制が持続可能な体制となるよう、様々な方策の検討を進める。

- ・米原市部活動地域移行検討委員会の設置
- ・部活動地域コーディネーターの配置

取組の成果

○米原市部活動地域移行検討委員会の設置

米原市部活動地域移行検討委員会を設置し、4回に渡って協議を進めた。委員には、実証事業の運営主体および地域指導者、実証事業参加校の中学校校長に委員として参加いただき、地域クラブ活動の成果や課題の把握を進めた。

○部活動地域コーディネーターの配置

部活動地域コーディネーターを配置し、市内全域の学校や地域団体、地域指導者等の下を訪れ、積極的にヒアリングを行った。それぞれの部活動地域移行に向けた現状の実態把握を進めた。

地域団体・地域指導者との連携について

○中学校教職員の意見

・休日に試合や強化練習等が入ることが多く、生徒への連絡調整が、難しくなるように思う。結局、教員が事務的なことを全て担うことになることや、外部指導者との連携で負担を強いられることもあるように思う。誰が指導のイニシアチブをとるのか、生徒が板挟みになる可能性も考えられる。

・地域指導者と顧問との連携や生徒との関係づくりが上手くいっていないと思えない。財源や地域指導者の都合のつく日も限られており、中途半端な活動しかできていないため、むしろ、教職員への負担が増えているように感じる。特に、顧問が専門的な指導ができない場合、指導面は地域指導者に任せるしかない。顧問がいくら工夫しても学校での活動では使用する機材などに制限があり、生徒に、思うような活動をさせられなく、申し訳なく思う。

出典：米原市部活動地域移行アンケート

取組の課題と対応方針

○学校と地域団体、地域指導者との持続可能な連携体制の構築に向けて

実証事業や地域連携を進める部活動では、子どもたちへの指導方針や活動の連絡・調整等において学校と地域団体、地域指導者との連携に大きな課題があることを把握した。活動の中での役割分担が明確になっていないため、各部活動ごとに顧問と地域指導者が役割の調整を進めている。連携がうまくとれていない部活動では、学校と地域指導者がそれぞれに不安を抱えた状態で活動を進めなければならない事態が起こっており、特に教職員の負担が大きい。スムーズな連携体制が構築できるよう、令和7年度には、学校と地域団体、地域指導者の連携に向けたマニュアルの作成や地域指導者の役割の周知を進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○運営団体・地域指導者の確保の取組について

休日の地域クラブ活動や地域連携に向けて、運営団体や地域指導者の確保のために様々な方策の検討を進める。

- ・米原市部活動地域移行検討委員会での検討
- ・地域団体や地域指導者へのヒアリングの実施

取組の成果

○米原市部活動地域移行検討委員会での検討

委員には、地域移行の受け皿となりうる、スポーツ少年団、総合型スポーツクラブ、地域文化芸術団体等に委員として参加いただき、地域団体や地域指導者の確保に向けて、現状の把握や方策の検討や協議を行った。

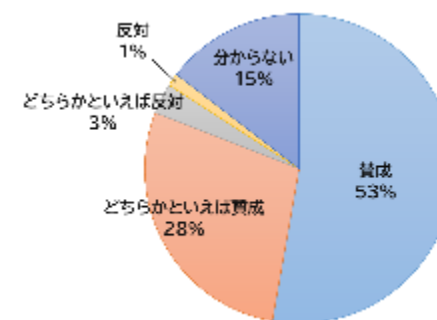
○地域団体や地域指導者へのヒアリングの実施

部活動地域コーディネーターは、地域団体や地域指導者を訪れ、実態や課題の把握を努めた。

地域指導者の指導について

地域指導者からの指導について

(中学校保護者の回答)



○中学校生徒からの回答

- ・もっと（競技の）技術を上げたいので地域指導者に教えてもらいたい。
- ・指導が厳しくなりすぎないようにしてほしい。一人ひとりに合わせて指導できるのならいいと思います！

○中学校保護者からの回答

- ・指導者が適切な人物かどうか不安。特に教育関係ではない人物の場合、信頼して任せて良いかが分からない。
- ・地域指導者に、専門的な技術指導を教えていただきたいが、指導者からのハラスメント等が心配です。

出典：米原市部活動地域移行アンケート

取組の課題と対応方針

○運営団体・地域指導者の確保の取組について

部活動の「地域移行」「地域連携」に向けては、地域指導者からの指導に大きな期待が寄せられている一方で、指導方法や子どもたち同士のトラブルへの対応などに不安を感じている生徒、保護者が多く見られる。今後取組を推進していくには、部活動の教育的意義やスポーツ文化・芸術活動の役割を理解し、本市の地域クラブ活動の方針を十分に共有することができる地域団体や地域指導者の参画が必須である。そのため地域団体や地域指導者の一定の質を担保しながら、地域団体、地域指導者を確保する方策の検討が引き続き必要がある。令和7年度には、地域団体、地域指導者の登録、認証制度の構築や地域指導者の資質の向上を目指した研修会の開催等を進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○地域スポーツクラブ活動への広域的な参加体制の構築に向けて

子どもたちが自分のニーズに合わせた活動に取り組めるような方策について検討を進める。

取組の成果

○学校、運営主体との検討

実証事業については、他中学校区の生徒の受け入れを今年度は、断念した。今後の受け入れに向けて、子どもたちの活動のニーズの把握や学校や地域団体と調整を進めた。

取組の課題と対応方針

○市内の広域的な参加体制の構築に向けて

各中学校間で設置されている部活動数から、子どもたちの活動環境に差があることが課題として把握できた。また、学校間を超えて、活動を進めるには、参加のルール設定をするなどまだまだ学校や地域団体等での調整が必要である。新しい活動体制の構築に向けて、環境整備を進めていきたい。

地域展開・地域連携のハイブリット型（イメージ）



子どもたちの活動のニーズについて

「令和6年度各中学校部活動の部員数と設置数」

(名)

	地上競技	バレーボール(男子)	バレーボール(女子)	バスケ(男子)	バスケ(女子)	卓球(男子)	卓球(女子)	サッカー	ラグビー(男子)	ラグビー(女子)	ダンス	吹奏楽	音楽	美術	体育	未設定	部活動数	部員数
北中学校	0					0	0				0	0				0	5	46
南中学校	10					10	7				3	16				0		
東中学校	0	0	0	0	0	0	0					0	0				9	240
西中学校	32		26	28	11	32	20	26						18	14	33		
南中学校	0					0	0	0	0						0		6	148
北中学校	10					22	2		26	15					27	25		
東中学校	0	0				0		0				0		0			7	208
南中学校	44	17				23		23				30		28	23			
西中学校	0					0						0		0			4	68
北中学校	22					14						8		0	22			
南中学校	0	0	0	0		0	0	0	0			0	0				10	317
東中学校	56	11	28	24		29	19	29	28			30	31		32			
計	164	38	28	70	28	11	38	51	77	77	28	17	3	84	49	14	55	135

通称	女子部	未設定
688名	202名	135名

○中学校生徒からの回答

・もう少し部活動の種類を増やしてほしいです。

○小学校児童からの回答

・（進学する中学校には）部活動の数が少なすぎるので、他の学校のように部活動の種類を増やして欲しい。

出典：米原市部活動地域移行アンケート

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

○「地域連携」に向けての取組

昨年度、柏原中学校区の教育フォーラムに著名なダンサーを招いた。そのことをきっかけに子どもたちのダンスへのニーズが高まり、今年度柏原中学校にダンス部を創設した。地域指導者を部活動指導員として配置し、「地域連携」による活動を進めた。

取組の成果

部活動顧問と地域指導者が連携して活動を進めた。地元のイベントや小学校でダンスのパフォーマンスを披露し、地域の活性化や小中連携の一翼を担った。

取組の課題

今年度は、市内5中学校に14人の部活動指導員を配置した。「地域連携」による活動については、学校と部活動指導員との連絡や調整等が課題である。汎用性のあるシステムを構築し、どの学校でもスムーズな連携体制が構築できるよう整備を進めたい。



【地域指導者との練習の様子】



【文化祭でのパフォーマンス】



【小学校でのパフォーマンス】



【地元のイベントでのパフォーマンス】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動体制整備事業 保護者説明会資料

公益財団法人
伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団

2024年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業 ホッケー:HOCKEY

- 運動部活動の地域移行に向けた実証事業(国・県・市)として実施
 - (公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団が事務局受託
 - 目的に応じて事業を選択
 - 学校と地域が連携し、地域指導者も事業に参画
- こんな参加も可能

- ・平日の部活のみホッケー… Aクラス
- ・週末もホッケーに取り組みたい… A・Bクラス
- ・もっとホッケーのレベルアップをしたい… A・B・Sクラス

保護者説明会

5/11(土)
PTA総会時

場所:伊吹山中学校

日時: 6月週末~ 詳細は申込後
対象: 中学1~3年生

※活動目的を理解し、活動を前向きに取り組むことができる人
※体験されてからの申込みを推奨します

参加費: 1,000円/年(B・Sクラス参加者のみ。スポーツ保険等)
※参加費は申込書に添えて顧問の先生にお渡しください。
※Jrユース保険適用。水曜夜等のJrユースで参加費支払いの方は支払いの必要ありません

持ち物: 運動のできる服装シューズ・タオル・飲み物(競技用具の貸出し可)
指導者: 中学校指導者、地域指導者(Jrユース他)
場所: 伊吹第1グラウンド他

Aクラス(平日部活) 平日放課後(通常部活) 体力づくり・運動習慣形成	Bクラス(実証事業) 土曜日3時間 体力・競技力の向上	Sクラス(地域クラブ) 土or日3時間 さらなるレベルアップ ※Jrユース活動
--	--	---

お問合せ: (公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団(伊吹山麓青少年総合体育館内)
米原市春照77-2 Tel 58-1155 Fax 58-1213 担当: 岩山

2024 ホッケー = 地域スポーツクラブ活動体制整備事業 = 申込書 兼 承諾書

参加者氏名: _____ 男・女 _____ 伊吹山中学校 () 年

希望クラスに○ (複数可) Aクラス(平日部活) Bクラス(土曜3H) Sクラス(競技力向上)

活動方針を尊重し、上記の受講を承諾します。保護者氏名()

連絡先() 申込先 _____ ホッケー部顧問の先生へ申込書を提出ください。切: 5月2日(木)

【男子・女子ホッケー部への参加啓発チラシ】

公益財団法人
伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団

2024年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業 卓球:TABLE TENNIS

- 運動部活動の地域移行に向けた実証事業(国・県・市)として実施
 - (公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団が事務局受託
 - 目的に応じて事業を選択
 - 学校と地域が連携し、地域指導者も事業に参画
- こんな参加も可能

- ・平日の部活のみ卓球… Aクラス
- ・週末も卓球に取り組みたい… A・Bクラス
- ・もっと卓球のレベルアップをしたい… A・B・Sクラス

保護者説明会

5/11(土)
PTA総会時

場所:伊吹山中学校

日時: 5月25日(土)~ 詳細は申込後
対象: 中学1~3年生

※活動目的を理解し、活動を前向きに取り組むことができる人
※体験されてからの申込みを推奨します

参加費: 1,000円(Bクラス参加者のみ。スポーツ安全保険等)
※参加費は申込書に添えて顧問の先生にお渡しください。
※いぶき卓球クラブ保険適用のためクラブ会員の方は支払いは必要ありません

持ち物: 運動のできる服装シューズ・タオル・飲み物(競技用具の貸出し可)
指導者: 中学校指導者、地域指導者(いぶき卓球クラブ他)
場所: 伊吹山中学校体育館

Aクラス(平日部活) 平日放課後(通常部活) 体力づくり・運動習慣形成	Bクラス(実証事業) 土曜日3時間 体力・競技力の向上	Sクラス(地域クラブ) 土or日3時間 さらなるレベルアップ ※いぶき卓球クラブ入会必要
--	--	--

お問合せ: (公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団(伊吹山麓青少年総合体育館内)
米原市春照77-2 Tel 58-1155 Fax 58-1213 担当: 辻村

2024 卓球 = 地域スポーツクラブ活動体制整備事業 = 申込書 兼 承諾書

参加者氏名: _____ 男・女 _____ 伊吹山中学校 () 年

希望クラスに○ (複数可) Aクラス(平日部活) Bクラス(土曜3H) Sクラス(競技力向上)

活動方針を尊重し、上記の受講を承諾します。保護者氏名()

連絡先() 申込先 _____ 卓球部顧問の先生へ申込書を提出ください。切: 5月2日(木)

【男子・女子卓球部への参加啓発チラシ】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の様子



【卓球】



【ホッケー】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和2年度

令和3年2月に滋賀県から、地域部活動のモデル事業としての打診があり、米原市から（公財）伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団に委託する形で、モデル事業を実施することになった。

令和5年度

○課題
・責任の所在の明確化など
○実施内容
・モデル事業を実証事業として継続し、責任の所在の明確化や体制の構築などの課題解決に取り組んだ。

令和7年度

○実施内容
・実証事業の継続
・部活動地域連携マネージャーの配置
・地域指導者研修会の開催
・地域への周知活動の実施
・部活動指導員の配置拡大

令和2年度

拠点校の選定、
受皿団体および
学校現場との
調整

令和3～4年度

モデル事業の実
施、受け皿団体
との調整

令和5年度

実施事業の実
施、受け皿団
体との調整

令和6年度

実証事業の継続、
コーディネーター
の配置、検討委
員会の設置

令和7年度

学校、地域団体
との調整、地域へ
の周知活動、地
域指導者の確保

令和8年度～13年度

段階的に「地域
展開」・「地域連
携」の取組

令和3～4年度

○課題
・指導者と部活動顧問との指導方針の共有や指導者の確保
○実施内容
・卓球部、ホッケー部の休日等の部活動を「地域スポーツ活動」として実施

令和6年度

○課題
・学校や地域団体、地域指導者との連携
○実施内容
・実証事業の継続
・部活動地域移行コーディネーターの配置
・部活動地域移行検討委員会の設置

令和8年度～13年度「改革実行期間」

○前期（令和8年度～10年度）
段階的に休日の「地域展開」・「地域連携」の取組。
○中間評価（令和10年度～11年度）
中間評価・計画などの再検討
○後期（令和11年度～13年度）
さらなる「地域展開」・「地域連携」の取組を推進。

R7年度の取組(予定)

R7年度 「地域展開」・「地域連携」へ向けての取組

(1) 部活動地域連携マネージャー

「地域展開」・「地域連携」体制の構築に向けて調整・連絡、地域指導者の発掘や資質向上に向けた取組、「地域展開」・「地域連携」の周知活動など、学校と地域の懸け橋となる役割です。



(2) 地域指導者研修会

部活動の教育的意義や発達段階に応じた科学的な指導、安全の確保・事故発生後の対応、ハラスメントの禁止など、地域指導者の資質向上に向けて研修を行います。



(3) 地域への周知活動

児童生徒や保護者、学校、地域へ地域展開の内容やスケジュール等を周知するための活動を進めます。



(4) 伊吹山中学校区実証事業

伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団への委託事業。男女ホッケー、男女卓球の4部活で実施します。

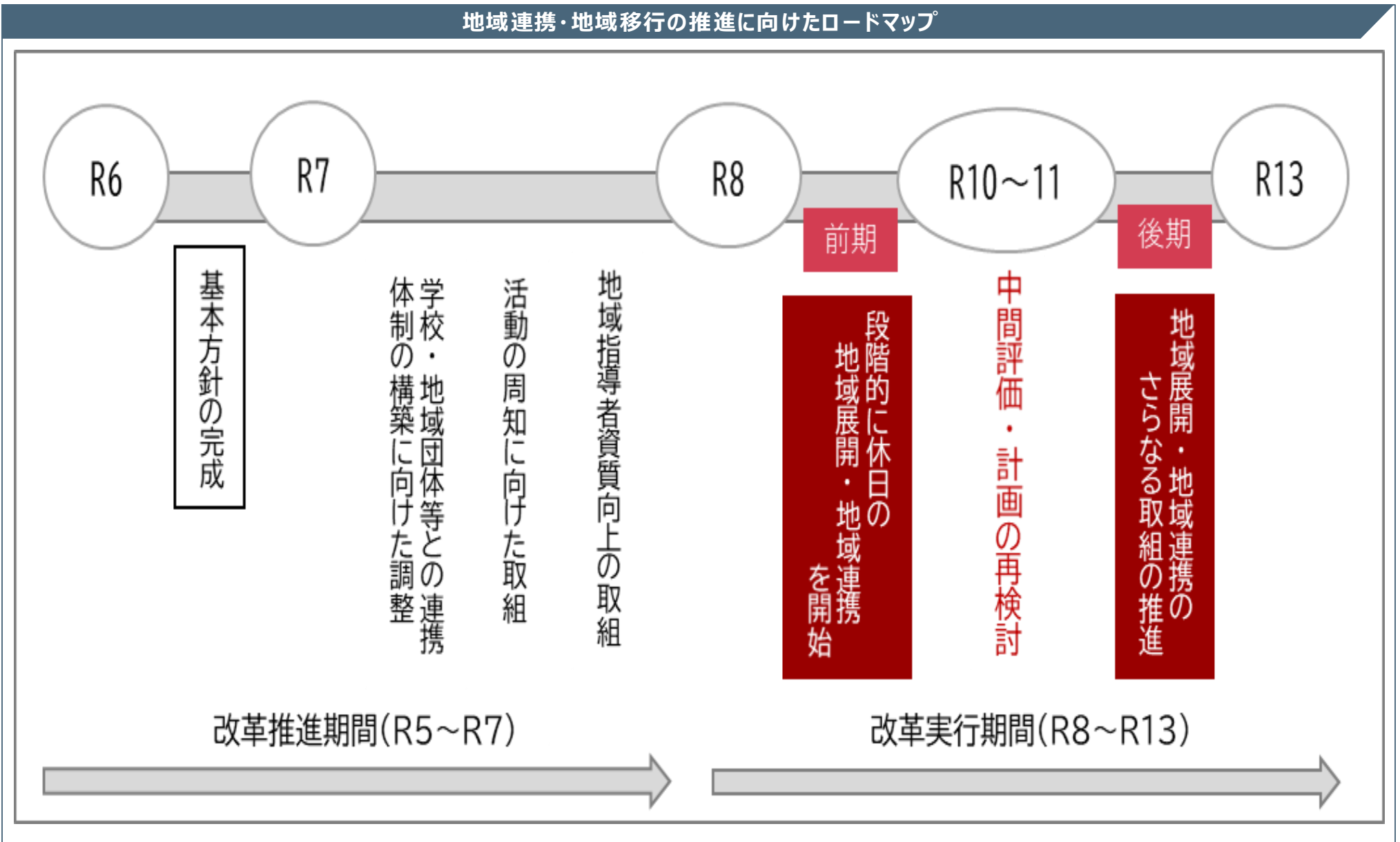


(5) 部活動指導員の拡大

地域連携に向けて、部活動指導員を配置します。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

滋賀県 竜王町

自治体名： 滋賀県蒲生郡竜王町

担当課名： 学校教育課

電話番号： 07478-58-3719

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	45 km ²
人口	11,267 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	339 人
部活動数	13 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

中学校の現状は、1町に1校であり、運動部活動は、陸上部、ソフトボール部、サッカー部、野球部、男子テニス部、女子テニス部、男子バスケット部、女子バスケット部、バドミントン部、卓球部、バレーボール部の11部活動が活動している。

町人口減少に伴い、生徒数も年々減少傾向にある。そのため、部活動においては、1部活動当たりの部員数は限られ、ソフトボール部とサッカー部が他の中学校と合同チームとして試合に出場している。

部活動数はほぼ10年前と同数であり、部員数の少ない部活の統廃合も進めてきたが、地元少

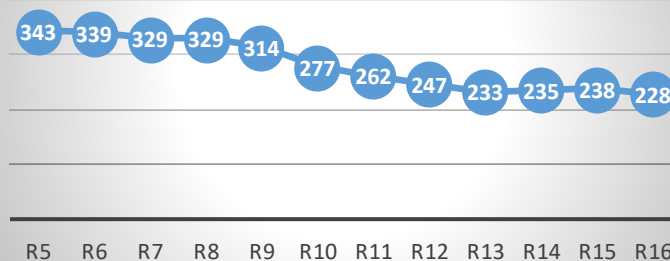
年スポーツ団との兼ね合いから、なかなか進んでいない一面もある。

同郡部にある日野町とは、遠距離にあり、合同部活動等の連携も難しく、隣接市においては、市内連携が強く、連携には難しい面もある。

生徒に有意義な部活動を提供するためには、近隣市町との連携よりも地域移行を進め、地域人材等の活用が有効であると捉えている。

今年度は、野球部が拠点校として他の中学校から参加できるように協議を重ね、体制を整えた。

竜王中学校生徒数の推移



出典：令和6年度小学校児童数より

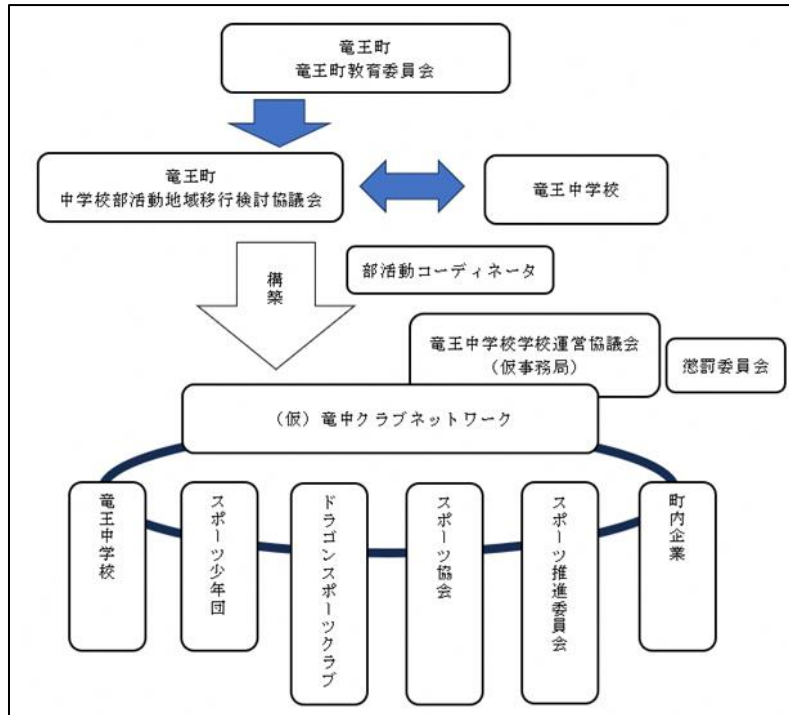
【課題】

現在の竜王町の出生数を鑑みると、今後減少の傾向はますます大きくなることが想定される。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…中学校との連携を進めながら、町内関係団体の連絡調整を行う。
近隣市町との情報交換等。
- ・生涯学習課…地域スポーツ団体（スポーツ少年団、地域スポーツクラブ等）に関する事項について。

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回学校運営協議会（部活動部会）の開催
令和6年6月	第1回竜王町部活動地域移行検討協議会の開催
令和6年7月～9月	野球部の拠点校化 東近江市教育委員会事務局との協議
令和6年9月	職員会議での地域移行（案）の提案 第2回学校運営協議会（部活動部会）
令和6年10月	第1回近隣市町部活動コーディネータ会議 第3回学校運営協議会（生徒会と学校運営協議会との交流）
令和6年11月	第2回竜王町部活動地域移行検討協議会の開催
令和7年2月	第2回近隣市町部活動コーディネータ会議 第3回竜王町部活動地域移行検討協議会の開催 第4回学校運営協議会（部活動部会）

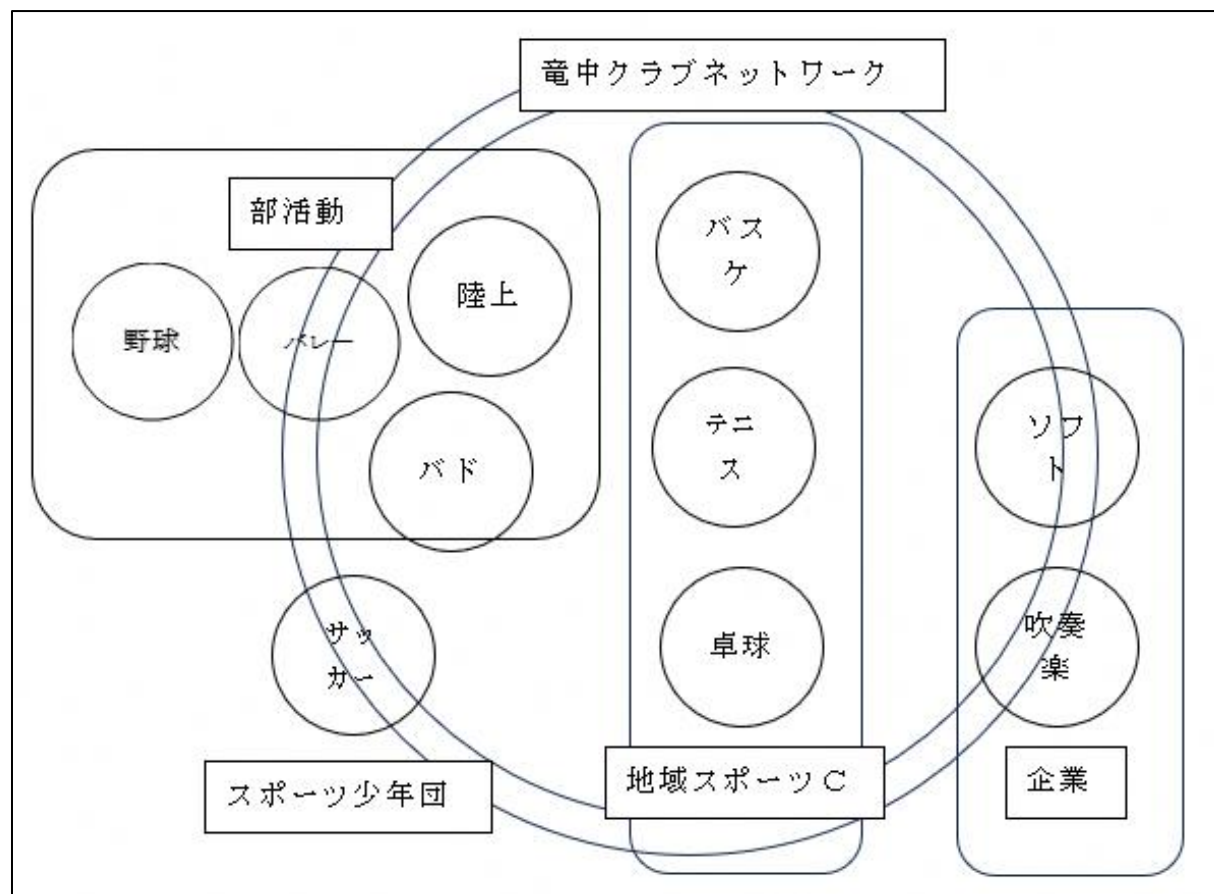
主な取組例

●竜中クラブネットワーク

部活動指導員を配置している部活動やスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブに指導者を求めながら、「竜中クラブネットワーク」を構築する形で移行を進めていく。

まずは、土日の移行を前提に進めていく。

●竜中クラブネットワークのイメージ図



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（2部活）
	B：部活動にはない種目など、新規のクラブ数		0クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	8人

②各クラブに関すること

中学校名	クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
竜王中	女子バレーボールクラブ	バレーボール協会	バレーボール	・平日 45回 ・休日 48回	昼間	1年 7人 2年 4人 3年 5人	4月～3月	4人	4人 (内、兼務4人)	0円/年額 (など)	中体連：部活動 その他：地域クラブ
竜王中	男子バスケットクラブ	スポーツ少年団	バスケットボール	・平日 11回 ・休日 2回	昼間	1年 3人 2年 11人 3年 6人	1月～3月	2人	4人 (内、兼務2人)	0円/年額 (など)	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・部活動地域移行検討協議会の定期開催することで、関係者との連絡調整や理解推進を図る。
- ・部活動コーディネータの配置により、中学校や関係者、近隣市町、県との連絡調整や合意形成に向けて具体的な動きをする。

取組の成果

- ・町内の関係機関（スポーツ少年団、地域スポーツクラブ、スポーツ振興協会、スポーツ推進委員及び学校等）代表者からなる（仮称）竜王町中学校部活動地域移行検討協議会を立ち上げ、定期的に会議を開催するなどして連絡調整を図った。
- ・滋賀県教育委員会事務局保健体育課指導主事及び滋賀県統括部活動部会コーディネータから指導助言をいただくとともに、中学校生徒会との交流をはかりながら情報共有等の円滑化に努めた。
- ・また、中学校の学校運営協議会内に部活動部会において中学校と連携を図る中で具体的な移行にかかる手続きを進めることとした。
- ・一方、部活動コーディネータを配置し、町内関係者間の連絡や他市町との情報交換等を図ることとした。
- ・中学校生徒会との交流において、「地域の指導者により、技術面での向上が図れて楽しんだ。」という声がある一方で、「先生の指導がないのは少し不安だ。」との声も聞かれた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・近隣市町との情報交換会に2回、県協議会に3回参加するとともに、ドラゴンスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）幹事会に出席し、地域移行について理解推進を求めることができた。また、土曜日に学校訪問を繰り返し、直接生徒からの意見等を求めながら、部活動顧問や地域指導者からの声を広く集めることができた。

今後の課題と対応方針

- ・次年度以降も竜王町中学校部活動地域移行検討協議会を定期に開催し、円滑な移行に向けて協議を重ねたい。
- また、部活動コーディネータについては、クラブネットワークにかかる運営費やスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの運営方針との整合性を求める具体策を挙げながら地域移行についての取組を進めたいところである。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・中学校学校運営協議会内に部活動部会を設け、指導者の具体の人選に当たった。また、同部会内に「懲罰委員会」を兼ねて設置し、不適格な指導者に対する指導助言等を行う場とした。
- ・総合型地域スポーツクラブの指導者やスポーツ少年団の指導者との協議を進め、指導者の量の確保に努めた。

取組の成果

今年度は、新たに部活動指導員として、陸上競技部、男子バスケットボール部において、指導者を確保することができた。

特に男子バスケットボール部においては、スポーツ少年団での地域指導者であり、保護者からも支援をもらいながら、土曜日の活動において活動を行い、平日の学校部活動との運営に成功している。

取組の工夫

学校運営協議会内に設置した部活動部会については、構成員をPTA代表、スポーツ推進委員等からなり、部活動については関心の高い人材であった。地域に根差した人材でもあり、幅広く地域の人材確保に当たることができた。

ドラゴンスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）幹事会にコーディネータが出席して、指導員の確保について求めることができた。

今後の課題と対応方針

指導者の人材確保については、非常に難しい課題となっているのが現状である。今後は、スポーツ少年団や地域スポーツクラブの指導者等にも協力を依頼する中で、質、量ともの人材確保に努めたい。また、県が主催する指導者講習会などに積極的に参加を依頼し、中学生の心理面や身体面の特性等についても理解推進を図ることで、教育的配慮をもった指導者の育成を図りたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・ドラゴンスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）幹事会にコーディネータが出席し地域移行に関する理解と支援を求めた。

取組の成果と工夫

ドラゴンスポーツクラブの会員数については、発足当初（平成16年度発足）360名規模であったのが、現在約90名と低迷している状況にある。このような中において、学校部活動と地域スポーツクラブとの連携は、双方にとってメリットになるものと考えられる。

ドラゴンスポーツクラブマネージャーからは、費用面の整合性やスポーツクラブの設置趣旨の違い等を整理する中で積極的に支援するとの了解を得た。

また、スポーツ少年団に所属する指導者については、ボランティア意識が強く、中学生生徒が小学生時に在籍していたことも多く、関係性も高い。このことから、今年度は男子バスケットボール部において、スポーツ少年団指導者、スポーツ少年団育成会（保護者会）との連携により、地域移行を進めることができた。

協議会とは別に、部活動コーディネータが中心となり、個別に近隣市町や関係団体と話す機会を作った。特にドラゴンスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）のマネージャーからは支援の声を確認した。

今後の課題と対応方針

関係諸団体とは、今後も継続して協議を進める必要がある。関係団体双方のメリットとデメリットを共有しながら、折り合い地点を見極めながら連携を進めたい。

特にスポーツ少年団においては、受け入れ年齢を18歳までとすることが確認できた。今後費用面の町政を図りながら、中学生の受け入れ態勢を整えたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- ・部活動コーディネータレベルではあるが、近隣市町との情報交換をはじめ知識や事業における情報共有（年2回）に努めた。
- ・竜王町においては、1町1中学校であるため、近隣市町との連携は欠かせない。少子化の進行する現在、特に郡内の日野町、東近江市との連絡調整は不可欠である。

取組の成果と工夫

東近江市との連携においては、今年度、中体連大会に野球部が拠点校として、東近江市との協定において実現した。これにより、本町生徒と東近江市内の生徒が生徒や保護者アンケートの項目や情報収集にかかる取組を共有した。このことは、他市町との動向を比べる意味においても有意義であった。

郡内の日野町とは、コーディネータ連絡会を開催（年2回）し、郡内の取組状況について情報共有を行うことができている。日野町とは、教職員の人事交流も盛んであり、今後とも継続して情報交換に努めることとしている。

県主催の部活動コーディネータ研修会においては、担当部署からの報告により、現在の進捗情報の交流を図ることができた。特に先進地市町の取組状況を知ることは、本町にとっても有効な手だてとなった。また、県の方針が示され、今後の地域移行についての方向性を知ることができた。

今後の課題と対応方針

1町1中学校の本町においては、他市町との協力や支援を仰ぎながら、広域的な視野で交流を進めたい。また、多種目同時の地域移行とはなかなかいかないので、1種目ずつ、点から線へ、線から面へと今後も拡大していきたい。

生徒を指導してもらえる人材発掘をいかにしていくかも、協議会や竜王中学校学校運営協議会と連携して進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

男子バスケットボールにおいては、3学期から土・日曜日は地域クラブとして取り組むことができた。竜王中学校の体育館を主な活動場所として、平日は顧問（2名体制）が主となって指導を行い、土・日曜日の指導はスポーツ少年団の指導者（1名に加え、スポーツ少年団の育成会が支援）が主となって指導した。これにより、男子バスケットボール部の生徒たちは、土・日曜日の活動において、地域の指導者からより専門的な指導を受けられることとなった。

取組の成果と工夫

男子バスケットボールの指導体制については、専門的視野から指導してもらえるようになり、生徒の運動能力や技術力も向上した。指導者の中には、保護者も含まれており、保護者の視点から活動を見守り、支えてもらっていることから生徒も安心して活動に参加できている。加えて、平日の学校での活動とも連携がとれ、このまま地域移行に向けた一事例として定着させたい。

スポーツ少年団との初の連携事例として評価している。学校部活動との関連においても、保護者との連携においても円滑に進んでいる。スポーツ少年団においても、団員不足に悩んでおり、中学生との合同練習の機会は貴重な時間だと捉えている。

今後の課題

指導者の確保については、今後も大きな課題である。多種目のスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等の人材受け入れを積極的に推進しながら事業を推進していかなければならない。また、人材の受け入れにあたっては、それに伴う財源を確保しなければならず、大きな課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

参加費については、スポーツ少年団会費や総合型地域スポーツクラブ年間会費との違いや兼ね合いもあり、受益者負担を原則としながらも現況については、協議中である。

取組の成果と工夫

これまでは、学校部活動として、町から財政面での援助があり、PTAからの多大な支援を受けてきた。現状は、個人で使用する用具や消耗品費、練習試合等にかかる交通費、土日のスポーツ保険料等は個人負担となっているが、練習会場費や団体で使用する用具等は公費扱いのままである。

今後、地域移行が進む中で、これらに加え、指導者等への人件費等が考えられ、受益者負担だけではとてもまかないきれない。人件費も含めた運営費の捻出が大きな課題である。

今後の課題と対応方針

実証事業受託のメリットを生かし、現在取り組んでいるところであるが、今後は継続的な予算化も視野に入れながら協議を進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

男子バスケットボールクラブにおいては、土・日曜日の活動も学校施設を継続して使用している。また、スポーツ少年団の使用している町内小学校体育館についても適宜使用ができています。今後移行を進めていく過程においても、学校施設を基本的に活用しながら、スポーツ少年団やドラゴンスポーツクラブの会場施設も活用しながら確保に当たっていく。

取組の成果と工夫

部活動連携型から実証研究を進めてきたが、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブとの連携の中で、その両面から生徒にとって有益な施設を活用する方向で協議を進めている。

幸いにも中学校内に町施設となる武道館や小学校の地域開放事業を活用しながら、多種目にわたる施設使用が展開できると考えている。

本町では、学校施設にとどまらず全天候型多目的グラウンド（ドラゴンハット）を所有する。そこで、それらの施設を減免措置で借用できるようにしながら、サブ施設として活用したい。

今後の課題と対応方針

地域連携型から地域移行を進めていく中では、中学校施設に加えて、小学校や町施設の優先使用含めて検討を行い、今後も持続可能な形で円滑に各施設を活用できるよう関係機関と協議を行っていきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

竜王町部活動地域移行検討協議会を4回開催し、様々な意見が出され、地域移行について検討してきた。

成果としては、部活動指導員が多くの部活動で確保されてきたこととバレーボール部と男子バスケット部がスポーツ協会やスポーツ少年団の指導者から、土・日曜日には専門的な指導を受けることができるようになったことである。

しかし、課題もでてきており、特に大きなものが、費用負担をどうするかということである。その他にも受け皿の体制づくりやそもそも部活動の数が多すぎるのではないかという意見、指導者の研修をどうするのかということがあがっている。これらのことは、今後検討をしていく。

●成果の評価

- ・令和5年度までには、卓球部、女子テニス部、野球部、バドミントン部、バレーボール部、ソフトボール部に部活動指導員を確保でき、令和6年には、新たに陸上競技部に新たな部活動指導員を確保できた。
- ・男子バスケットボールにおいては、3学期から土・日曜日は地域クラブとして取り組むことができた。平日の指導は顧問（2名体制）、土・日曜日の指導はスポーツ少年団の指導者（1名に加え、スポーツ少年団の育成会が支援）であり、専門的な指導を受けることとなった。
- ・野球部については、東近江市教育委員会事務局学校教育課部活動担当者コーディネーターと協議をして、拠点校化をするにあたっての整備を行うことができた。
- ・生徒会と交流会を行い、生徒の意見を直接聞くことができた。

●今後に向けて

- ①地域移行の準備を進めていき、令和13年度にスムーズに移行出来るようにする。
- ②受入先の体制づくり
- ③各部活動の持続可能な将来像を考える。
- ④費用負担の検討
- ⑤竜中クラブネットワークの構築
- ⑥指導者の資質向上

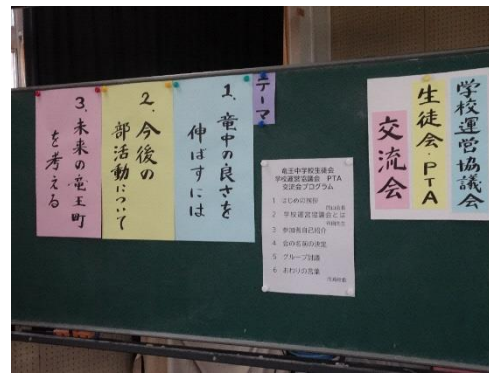
参加者の声

● 生徒会と学校運営協議会との協議の様子

【模造紙にまとめて各グループ発表】



【3つのテーマで協議】



【校長先生の説明】



【部活動地域移行コーディネーターの説明】



● 参加者の声

中学生

- ・スポ少と一緒に活動するなど外部の先生をよぶ
- ・地域移行は、先生との関りが少なくなっちゃうからしないでほしい
- ・外部コーチの上手な人に来てほしい

中学生

- ・体育館を冷房完備にしてほしい
- ・体育館もう1個ほしい
- ・古くなったものを買い替えてほしい

中学生

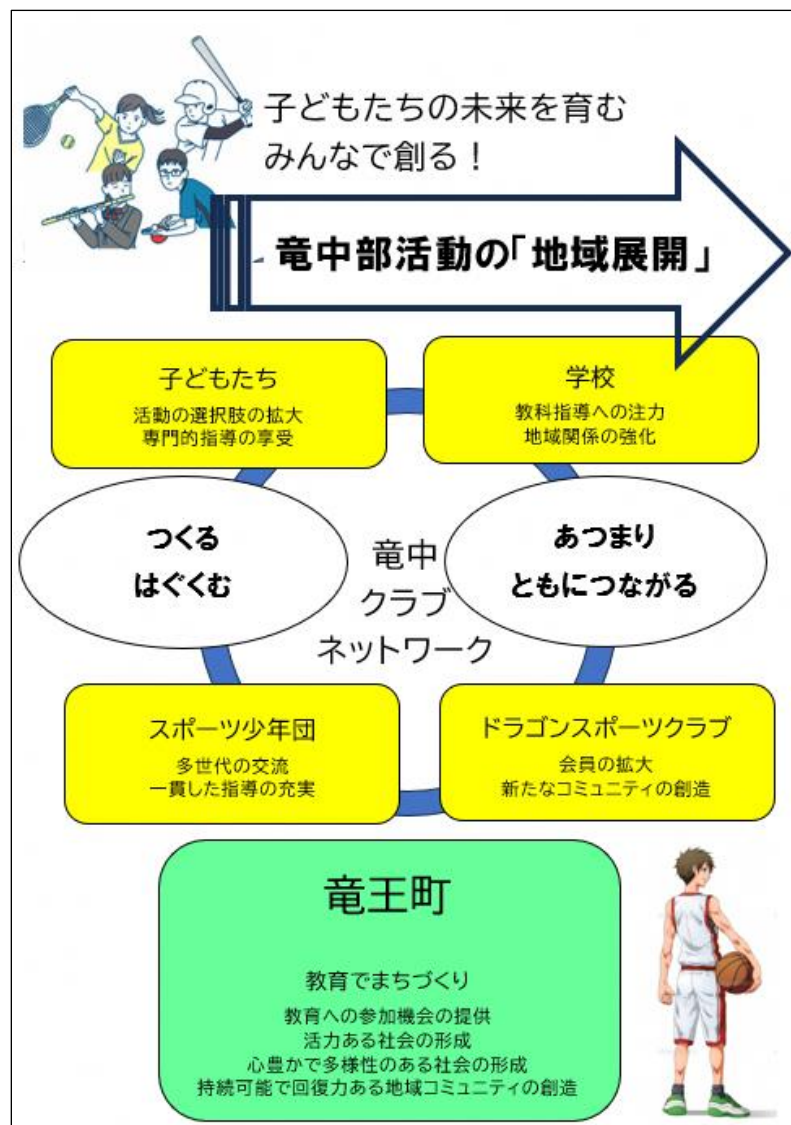
- ・冬の部活時間が短い
- ・強くなりたいなら土日でも練習が必要
- ・土日連続の練習は嫌
- ・夏休みの活動時間を見直し、早朝の涼しい時間に活動する

中学生

- ・地域の方と先生との連絡ができていなかった
- ・帰り道に街灯をつけてほしい

広報資料

【部活動地域展開イメージ図】



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【男子バスケット練習風景】



【地域の指導者より助言を受けるバレーボール部】



【竜中グラウンドでの練習風景】



【生徒会と学校運営協議会との交流会】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、スポーツ少年団、ドラゴンスポーツクラブ、竜王町スポーツ協会、スポーツ推進委員会、町教委、コーディネーター、竜王中学校運営協議会

●経過

令和5年度より部活動地域移行検討協議会を設置し、上記の代表者との検討が始まった。保護者、生徒、先生よりアンケートを取り、まず実態を把握した。今年度までに計4回の協議会を開催し、竜王クラブネットワークをつくり、できる部活動から地域移行をすすめていくこととした。

●実施にあたって生じた課題

受け入れ先の体制づくりが難しい。費用負担をどうするのか。指導者を見つけることや指導者の資質向上のための研修の体制作り。

●今後の取組

①地域移行の準備を進めていき、令和13年度にスムーズに移行出来るようにする。

②受入先の体制づくり

・スポーツ少年団、ドラゴンスポーツクラブ等に、受入可能調査（照会）を行う。

・受け入れるにあたっての課題を整理する。

③各部活動の持続可能な将来像を考える。

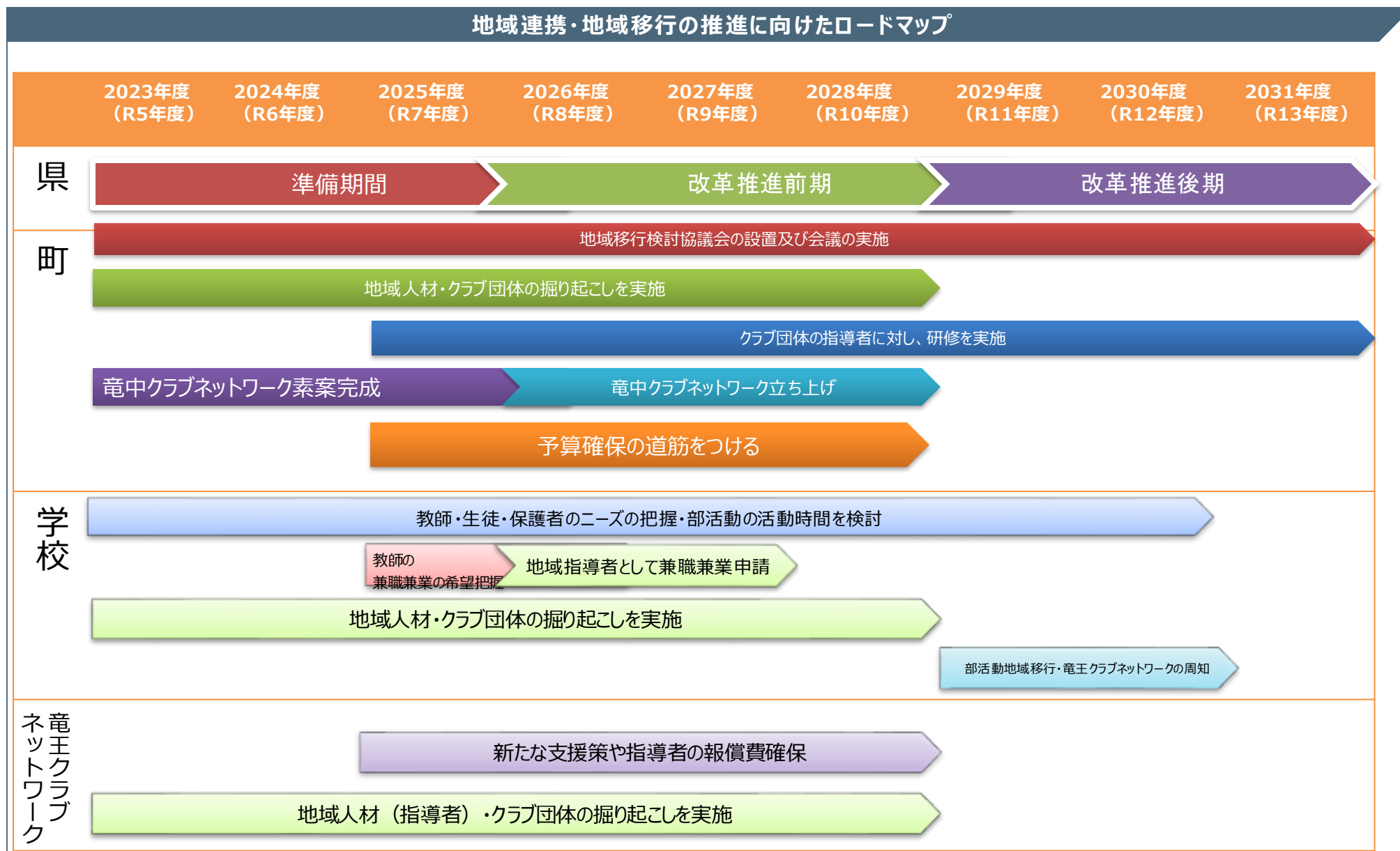
・子供たちが望む部活にするため、子供たちの意見を聞く。

④費用負担の検討

⑤竜中クラブネットワークの構築

⑥指導者の資質向上

3. 今後の方向性



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

滋賀県 豊郷町

自治体名： 滋賀県豊郷町

担当課名： 保健体育課

電話番号： 0749-35-8010

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	7.8 km ²
人口	7,108 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	209 人
部活動数	10 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和5年11月 検討協議会設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

生徒数や教員数は減っているものの、部活動の種類や数は変わっていないことから、競技経験のない教員が指導をせざるを得ない状況が多くあり、このことは生徒が専門的な技術指導を受けにくいことにも繋がっている。また、学校では活動したい部活動がなく困っている生徒もおり、部活動への加入率は年々低下している。特に団体競技においては、部員の数の減少から、自校だけではチームを編成できない部活動も出てきており、隣接の中学校と合同チームを編成して大会に参加している。

令和5年度から「豊日中学校の部活動の在り方及び地域移行を考える検討協議会」を設立し、本年度からまず4つの「豊郷モデル」として①スポーツ少年団中学部を基本にしたサッカーと剣道、②クラブチームを受け皿とした地域クラブとしてのバレーボール、③部活動に入部していない生徒を中心とした総合型地域スポーツクラブによる多種目型のクラブをスタートした。

まだ、中学校との連携や活動時間などの課題があるが、順調に運営できている。また、来年度に向けてバスケットボール部と美術部の指導者を確保できたのでモデル事業に加える予定であるが、まだまだこの取り組みについて小中学生やその保護者に理解されていないところがあるのでその点も含めて情報発信に力を入れていかなければならない。

豊郷町立豊日中学校の
生徒数の推移

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11
生徒数	209	208	205	198	194	190

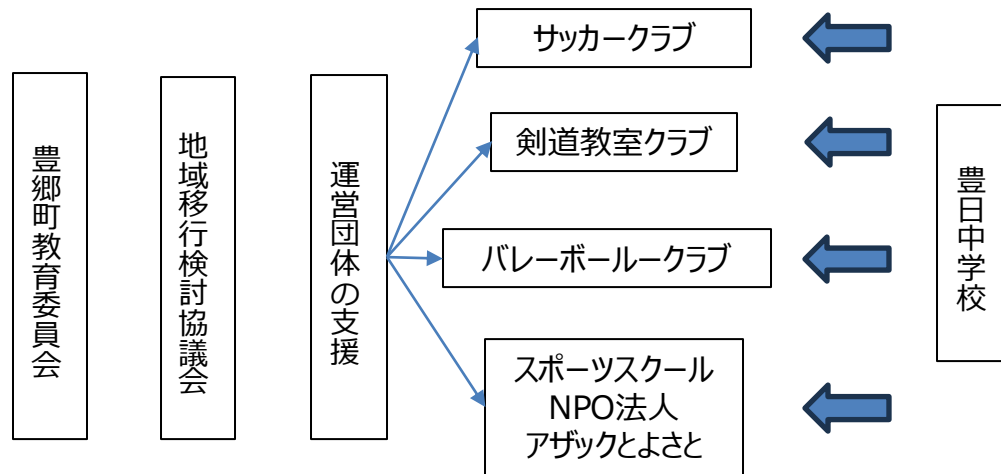
豊郷町立豊灯中学校の部活
動加入率（%）の推移

年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6
加入率	89	88	84	85	83	81

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

● 運営体制図（市区町村における推進体制図）



● 行政組織内での役割分担

◎ 教育委員会

- 学校教育課・・・地域移行の担当 コーディネーターの配置 中学校との連絡調整
- 社会教育課 保健体育係・・・地域人材の発掘、予算の確保、報酬の支払い 指導者との連絡調整 施設の利用

◎ 首長部局

- 総務課・・・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年4月	バレーボール指導者採用面接
令和6年5月	各クラブ見学 町広報記事取材
令和6年6月	第1回豊日中学校の部活動のあり方 及び地域移行検討協議会開催
令和6年7月	スポーツスクールクラブの運営協議 夏休み前練習計画確認
令和6年8月	町広報に4クラブ掲載 犬上郡三町地域移行合同会議
令和6年9月	県からの視察 近隣市町見学
令和6年10月	来年度の方針と予算について協議
令和6年11月	来年度に向けてバスケットボールと野球 の指導者と懇談
令和6年12月	中学校と4つのクラブの現状と課題につ いて協議
令和7年1月	県外視察（和歌山県かつらぎ町）
令和7年2月	第2回第豊日中学校の部活動のあり 方及び地域移行検討協議会開催
令和7年3月	来年度からのモデル事業決定

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	4 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（サッカー、剣道、バレーボール）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ（多種目）
全体の指導者数	13 人	全体の運営スタッフ数	14 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
サッカークラブ	スポ少	サッカー	月 8 回/ 週 2 回	火・金 18:00 ~ 日 13:00 ~	1年3人 2年6人 3年5人	4月~3月	町民グラウンド 豊郷小学校	3 人	3人 (内、兼務1人)	月会費 ×× 500円/ 年会費 6,000円	中体連：部活動
剣道教室 クラブ	スポ少	剣道	月 4 回/ 週 1 回	土 19:00 ~	1年2人 3年3人	4月~3月	町武道館	3 人	3人 (内、兼務3人)	月会費 ×× 500円/ 年会費 6,000 円	中体連：部活動
バレーボールクラブ	クラブチーム	バレーボール (新)	月 4 回/ 週 1 回	木 19:00 ~	1年6名 2年3名	4月~3月	中学校体育館	2 人	4人 (内、兼務4人)	スポーツ安全保険代のみ	中体連：部活動
スポーツ クルークラブ	総合型地域スポーツ クラブ	多種目	月 4 回/ 週 1 回	月 2 回水 15:00 ~ 月 2 回土 14:00 ~	1年1人 2年3人	4月~3月	町民体育館	5人	4人	スポーツ安全保険代のみ	大会等の参加はなし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

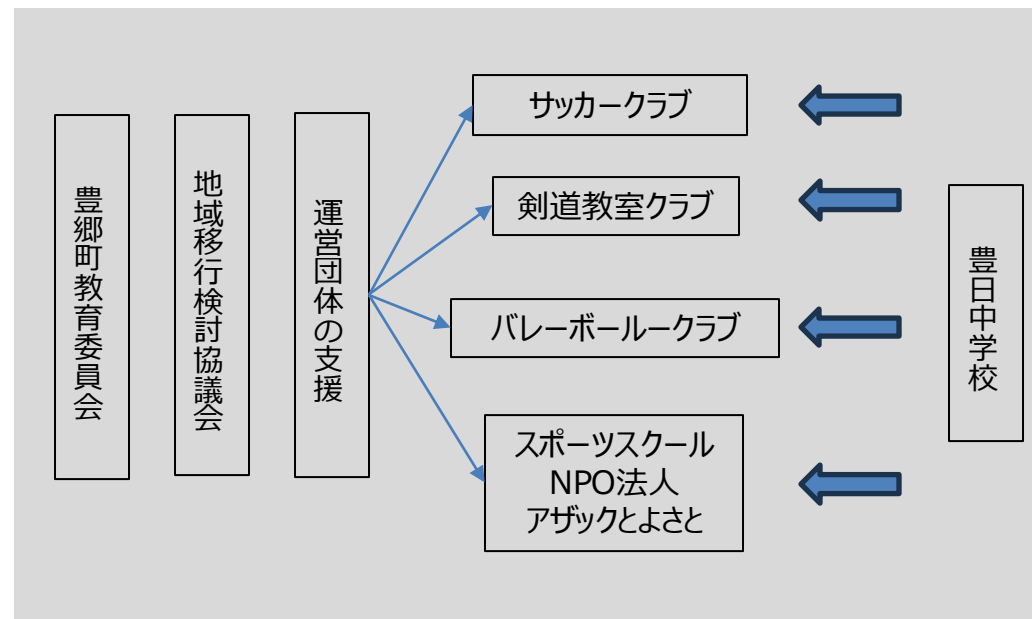
開催実績なし

主な取組例

4つのクラブの活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、剣道、バレーボール、多種目
運営団体名	スポ少、クラブチーム、総合型地域スポーツクラブ
期間と日数	サッカー：4月～2月 月10回程度 剣道：4月～2月 月4回程度 バレー：4月～2月 月4回程度 多種目 4月～2月 月4回程度
指導者の主な属性	すべて有資格指導者
活動場所	中学校体育館、町武道館、町民体育館 小学校グラウンド、町民グラウンド
主な移動手段	徒歩または自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：12,000円/年 剣道：6,000円/年 バレー・多種目：スポーツ安全保険のみ
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- クラブ代表者（統括責任者） 4名（各クラブ1名）
役割：クラブ全体の練習計画立案やコーディネーターとの連絡調整を行う
- 指導者 13名（4クラブ合計）
役割：実際に指導、中学校顧問との連絡調整を行う
- 運営補助者 14名（4クラブ合計）
役割：指導者の補助や活動における安全管理面の支援を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

①協議会の設置

町内のスポーツ関係者からなる協議会で定期的・恒常的な情報共有・連絡調整で緊密な連携

②ニーズの把握

児童生徒及びその保護者から得たアンケート結果からニーズ等を把握

③地域人材把握と指導者の確保

教育委員会が主体となって情報を収集したり公募で指導者を募る

④運営団体の決定

既存の団体などと協議し、運営モデル実施団体を決定する

⑤受け皿団体の運営方針の決定

活動時間・保険の加入・費用負担などを協議し、実施要項を作成する

取組の成果

児童・生徒及び保護者にこの事業を周知してもらうには、モデル事業として受け皿団体の協力してもらうのが一番わかりやすい。3つ（サッカー・剣道・バレー）のクラブは指導者がよくこの事業を理解をされ、積極的に取り組む体制が整いつつある。総合型地域スポーツクラブでは新しい取り組みであるが、多種目のクラブを模索して始めている。また、常に受け皿団体と担当者が連携し、クラブの現状の把握や活動の様子を視察する体制が確立できた。実質的な指導者については、すべて有資格指導者を確保した。野球部については、クラブチームへの流出で部員不足が深刻となり、郡単位（近隣三町）の運営について前向きな話し合いをする場が2回持てた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

中学校顧問と指導者との合同連絡会を開催し、活動の課題や生徒の様子、互いの要望などを交換する機会を持った。また、月ごとに中学校と地域クラブの練習計画を提出させ、互いに連絡を取り合う体制をと整えた。特に小学校の児童・保護者の不安や心配事を解消するために、チラシや町広報紙などで情報発信に努めた。

今後の課題と対応方針

休日への完全移行の年度については、モデル事業の成果や中学校の方針を十分考慮して決定しなければならない。まだまだ小中学校の児童生徒や保護者への情報発信や理解が不十分で「地域クラブになれば費用が発生するのが心配」という思いがある。必要最低限の負担の可能性は地域クラブが拡大すれば高くなるので、公平性も問われる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

モデル事業の受け皿団体には、それぞれのライセンスを持った指導者を配置できた。地域移行の趣旨から逸脱した指導内容にならないよう「取り決め事項や指導の心得」を決定した。

町広報紙やHPなどを通じて指導者募集を行い、今年度新しくバスケットボールと美術の応募があり、いずれも適正であったので、来年度のモデル事業の指導者として準備を進めた。

令和5年度指導者

スポ少指導者 サッカー・剣道
 総合型地域スポーツクラブ

令和5年度応募人数

1名 バレーボール（採用）

令和6年度応募人数

2名 バスケットボール（採用）
 1名 美術部（採用）

令和7年度募集部活

野球・卓球・ソフトテニス
 情報・吹奏楽

登録者属性

サッカーと剣道はスポーツ少年団の指導者、バレーボールは町の公募に応募し、適正と判断し採用。スポーツスクールはNPO法人の総合型地域スポーツクラブが受け皿となった

種目

4つのクラブ
 バレーボール
 サッカー
 剣道
 多科目

資格有無

指導者は有資格者が指導
 バレーボール（JSPOコーチングアシスタント）サッカー（JFA公認サッカー指導者）剣道（全員有資格者）スポーツスクール（各種目専門指導者及び各インストラクター）

取組の成果

実証事業のバレーボールクラブの指導を受けている生徒の声「とてもわかりやすく教えてくださるので楽しく練習できてうれしいです」（町広報8月号）バレーボールクラブは木曜日の夜間も活動しているので、中学校部活動はその曜日は活動はなく顧問も業務に専念できている。

* 募集要項及び登録フォームは右図参照

豊郷町地域部活動指導者を募集します

あなたの情熱と経験を未来ある豊郷町の中学生のために豊日中学校の地域部活動の指導者になりませんか？

主な活動内容

- 部活動の技術指導
- 指導計画の作成
- 練習試合等の引率

期間：令和6年4月～令和7年3月まで（年度途中の応募もOK）
 種目：豊日中学校のすべての部活動（運動部・文化部とも対象）
 時間：原則週1回（土日のいずれか）（2～3時間の指導）
 報酬：指導時間に応じて支払われます

応募方法
 下記の登録フォームに入力し応募ください。後日教育委員会より連絡を差し上げます。

登録フォーム

問い合わせ 学校教育課 ☎35-8131

とよさと 2024年3月号



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- 熱中症対策の通知
指導者全員に資料を配布し、注意喚起をした。
- 指導における取り決め通知
指導者全員に指導時間、指導報告、指導の心得、倫理規定（日本スポーツ協会「倫理規定第4条」参照）などを通知した。
- 中学校顧問との連携を目的に研修会を開催
中学校の各顧問とクラブの指導者、中学校部活動主任、教育委員会・コーディネーターが研修に参加し、会合と情報交換を行う。

指導者研修の参加実績

- ・開催日：令和7年1月10日
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：12人

受講者の声

- 指導者
研修会に参加して、「生徒の様子」や「中学校の地域移行の考え方の考え方」、「教育委員会の方針」等がよく理解できた。
- 部活動顧問
「指導者の指導方針」や「中学校への要望」、「互いに協力できること」などを聞いたことはこれからの指導に役立った。
- コーディネーター
関係者が集まり、「町としての方向性を確認できた」ことは意義があった。また、中学校の月ごとの練習計画などを各クラブと情報交換する仕組みをこの場でできたこともよかった。

今後の課題と対応方針

指導者と中学校、コーディネーターが連携し、常に現状の把握や活動の様子を情報交換したり視察できる体制づくりが必要である。また、持続可能な地域クラブにしていくためには、指導者はこの事業のよき理解者であり他の指導者や後継者の育成にも力を注いでいただく必要がある。

また、指導者として適任者であるかの審査とともに採用基準の明確化や定期的な研修の実施が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツ推進委員、スポーツ協会、スポーツ少年団については、長年子どもたちの健全育成に尽力しておられる関係者もおられ、本事業には当初から協力的であったので、スムーズに検討協議会も立ち上がった。

また、県スポーツ協会の役員や総合型地域スポーツクラブのアドバイザーなどから県内外の情報を得ることができた。本町の総合型地域スポーツクラブも施設の指定管理を受託し施設利用など事業運営にも協力的である。

取組の成果

まず、モデルとして地域移行を進めたいという提案に、サッカーと剣道のスポーツ少年団の指導者が中学部を立ち上げスタートし、順調に活動ができている。

バレーボールは、指導に応募してこられて立ち上げたが、中学校の協力で順調に活動できている。

総合型地域スポーツクラブで多種目のクラブを立ち上げ、部活動に参加している・していないに関わらず、自分たちがやりたいスポーツを選んで活動したり、インストラクターの指導で学んだりすることができた。



バス等の運行実績

- ・日数 1日
- ・利用者数 3人（ほかの参加者10数名）
- ・運行経路
実証事業ではないが、総合型地域スポーツクラブのスポーツスクールに参加している生徒が県立アイスアリーナでのスケート教室（多種目）に参加

バス等の運航経費・収入

- ・人件費
無し
（総合型地域スポーツクラブの事業に参加のため）
- ・利用料
一人 中学生 1,000円
（貸靴代含む）

今後の課題と対応方針

生徒や保護者の思いや願いに地域クラブが応えるためには、この事業が中学校にとっていい結果をもたらす取り組みにしていかなければならない。コーディネーターがそれぞれの関係団体との連携を一層図りながら互いの情報交換の場をつくっていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

野球部では、競技志向クラブへの流れで部員不足が深刻。現在も近隣中学校と合同チームで中体連などの試合に参加している。今後もその傾向は続き、保護者の送迎や費用負担が困難な家庭では、中学校の部活動に入部してもほとんど好きな野球ができる状態ではないのが現状。郡単位で合同部活動が運営される仕組みが将来的にできないか犬上郡（三町）が協議する場を2回開催できた。

各自治体の役割

合同部活動への取り組みは、現段階ではまだまだ具体的に進んでいない。
少子化はどの町も同様で、広域的な面で考えていく必要があるが、合同となるとどこが事務局をもつのか？、どのような費用配分が必要なのかといった面などで具体的にリーダーシップをとる事務局が必要であり、なかなか短期間では進められない。

移動手段

生徒の移動を考えると中間に位置する町が会場となるがいずれも自転車での移動が可能な生徒は少ないので、保護者等の送迎になる。休日を中心に考えても送迎が負担になることから実現しても参加できる生徒は限られてくる。
公的な車両も考えられるが、コストの面で難しい。

事務局運営の方法

地域移行への取り組みに広域的な面でみると現状では差があるので互いの利点を探る中で生徒たちにとって良い方向性を見出せるように事務局が協力体制を整える必要がある。

取組の成果

今後は、郡単位（3町）で野球以外でも合同のクラブを設立し、運営していくための組織化について教育委員会を中心に前向きに具体策を考えることとなった。

（中学校教員のアンケート結果 右図）

問い 合同部活動について 賛成 84%

合同部活動についてのアンケート

結果の概要

1. 中学校部活動の地域移行として犬上郡3町の合同部活動として活動する計画についてどう思われますか。

詳細



今後の課題と対応方針

まず、近隣町同士でそれぞれの中学校の課題を踏まえた地域移行が広域的に取り組めるのか話し合う場を持つことから始めるのが重要である。実施に向けた具体的な取り組みを進めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

本町では4つのモデル事業をスタートした。実証事業としてバレーボールクラブを立ち上げ、指導者の都合で平日の夜間の活動となっているが部活動はその曜日は休止とし、教師の負担軽減となっている。今後は休日の活動としていく予定。サッカーと剣道はスポ少中学部というスタイルで休日を中心に活動しある程度の成果がみられたら、中学校に施設に移動して地域移行の形で活動する予定。スポーツスクールは中学生の運動の場として部活動がない曜日と休日を中心に自分たちがやりたい種目を中心に活動し、専門的な指導を受ける体験をしたり、自分たちで種目にこだわらないプログラムを組みながらそれぞれが自分たちあったスポーツを見つけて行くスタイルで地域移行を考えたい。

活動の詳細			
参加人数	9人	指導者数	2人
属性	バレーボール		
具体的な内容	毎週木曜日の夜間に地元のクラブチームの指導者とチームのメンバーが基本的な練習と技術指導を行っている。指導者の都合で平日の夜間となっているが、休日への完全移行に向けてのモデル事業としている		
子供の声	「やさしく丁寧に教えてくれるので楽しく毎回参加している」		
関係者の声	今年度からモデル事業としてスタートした。はじめは互いにうまくいかないところもあったが、部員の中でバレーボールがしたい、もっとうまくなりたいという生徒が集まってきて、指導者やチームの人たちの補助もあって順調に事業が進んでいる。		
運営経費	夜間の中学校体育館利用は使用料発生するがモデル事業ということで無料。また、2名の指導者謝金は1,500円/時間		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

定期的に4つのクラブを訪問し、生徒や指導者から情報を得ると、参加している生徒は「やる気を持って楽しく参加している」、指導者は「生徒たちの様子もだいぶ慣れてきたみたいで積極的に参加している」、保護者からは「これからどうなっていくのか不安なところもあるが、子どもが喜んで参加しているなら応援したい」という声を聞いた。

まずは平日の部活動は中学校で、休日は地域クラブで活動するという体制で進めたいと考えているので、まずは今年度はモデル事業の成果を検証して徐々に拡大したい。

バレーボールクラブに参加している生徒へのアンケート (参加生徒 9名)

地域クラブに参加してどう思いますか？

地域クラブでは楽しく活動ができる	4名
指導者の先生が優しく丁寧教えてくれる	3名
練習がしたいので参加したい	2名
練習が厳しいのであまり参加したくない	0名
特に何も思わない	0名

今後の課題と対応方針

基本的な方針として、①「平日の部活動は学校で」②「休日の部活動は地域連携を目指す」ということを基本にしながら、地域の施設で地域の指導者による持続可能なクラブを中学校と連携し拡大していくことが、生徒や保護者にとってもわかりやすく、教師の負担軽減も計画的に実現できると考える。また、①については、中学校で部活動のある曜日と部活動がない曜日の時間割の工夫（例えば部活

動がある曜日は5限まで、部活動がない曜日は7限まで）や一斉下校時間の設定で部活動の時間や教員の業務時間の確保する例なども参考にしながら、中学校で検討してもらおう。②に関する最終年度はモデル事業の成果や中学校の方針を十分考量して決定していくものとする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

令和5年度後期より受け皿団体として準備を進めていたので、令和6年度からの参加費用の負担をできるだけ少なくすることがスムーズな移行につながると考え、予算化に取り組んだ。施設利用料や指導者謝金についてはほぼ要求通りの予算が認められた。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

バレーボールは、中学校の体育館で中学校の備品等を利用、剣道とサッカーはスポーツ少年団の備品等を利用するが、小学生と中学生の消耗品等の企画が違う面があるので、自己負担として月費は必要となる。スポーツスクールは総合型地域スポーツクラブの施設や備品を利用するのでほとんど費用は発生しない。

■ランニングコストの分析

受益者負担として、全クラブ参加者と指導者にはスポーツ安全保険の加入を義務づけているので、年間分の個人負担は必要となるが、施設利用料については、予算化されている。ただ、スポーツスクールの他市町の施設利用については個人負担が発生する。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

バレーボール スポーツ安全保険代800円のみ
スポーツスクール スポーツ安全保険代800円と町外で活動の中で参加費や施設利用料等が発生する場合は自己負担
剣道・サッカー 地域クラブとしての活動として
スポーツ安全保険代800円
スポーツ少年団登録料300円
団としての活動費 月500円程度

収支バランス

地域クラブとして必要な経費は予算化できたので、当初より受け皿団体も安心して活動ができるようになったと思える。特に、昨年度のアンケート結果から生徒や保護者は「地域クラブになれば今までの部活動とは違い費用が発生するのが心配」と言う声がたくさんあったので、できるだけ参加者負担を少なくする措置として当初の予算化を強く要望した。

しかし、今後は各クラブで新しい備品や消耗品が必要となることも考えられ、さらに中学校のものを借用することもあるが、受益者負担も必要最低限になるし、地域クラブが拡大すれば公平性も問われるという新しい課題が発生すると思われる。軌道に乗るまでに困窮家庭の支援はどのようなことが考えられ、どのようなことが必要なのか検討しなければならないとも考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

「スポーツ活動費（保険料）」については、生徒の保護者等や指導者自らが負担するべきものとする。また、施設利用料や指導者謝金等のについては補助金や町費予算等を活用する。

「スポーツ活動費」の中で受益者負担の対象となる内容の中で、主に消耗品や大会や練習試合等への参加費用や団体登録料などが考えられるが、地域クラブを立ち上げ、受け皿団体として持続可能なクラブのあり方として検証を行うために今年度は「豊郷モデル」として4つのクラブを運営したので、その成果や課題を十分検証しながら、次のステップとして「地域クラブの運営必要経費」を事務局で検討したい。

今後の課題と対応方針

参加者負担を軽減するために行政の支援が必要であるが、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築するためには、受け皿団体の運営については必要な経費を捻出する必要がある。

参加者負担の対象から除外する経費

○指導者謝金

サッカー 1,500円/時間 × 3時間×42週×3名 = 567,000円

剣道 1,500円/時間 × 1時間×42週×6名 = 378,000円

バレーボール 1,500円/時間 × 2時間×42週×3名 = 378,000円

スポーツスクール（多種目）1,500円/時間×3時間×42週×2名 = 378,000円

○施設使用料（町民グラウンド）

サッカー 600円/時間×3時間×2回×42週 = 285,000円

スポーツスクール（多種目）600円/時間×3時間×42週 = 378,000円

* 剣道は町民武道館（無料）バレーは中学校体育館（無料）

参加者負担の対象とする経費

サッカー・剣道

スポーツ安全保険800円+スポ少登録料300円

+ 団活動費年6,000円（月500円）

バレー・スポーツスクール

スポーツ安全保険800円のみ（ただし、スポーツスクールは、他市町施設利用料発生）

スポーツ活動費に絞って、参加者に負担を求める場合であっても、参加人数が少なかったり、行政の支援が継続されなかったりすることも予想される場合の予測的な対応を今後しっかり検討していく必要があるが、それには受け皿団体の運営基盤が強固なものでなければならぬし、この事業を本町の町づくりの一環とした取り組みにしていくことも必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

生徒にとっては一番安心して利用できる近くの施設は学校施設である。また、参加する生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行なった。

取組の成果

○活動基盤となる施設のついては、受け皿団体と中学校にこの事業に対する理解を高める中で、受け皿団体と学校の繋がりを深め、学校体育施設及び町内公共施設を利用した活動となった。

令和6年4月～12月の各クラブ施設利用状況

サッカー	小学校グラウンド	30回
剣道	町武道館（中学校敷地内に隣接）	33回
バレーボール	中学校体育館	28回
スポーツスクール	町民体育館	22回
	計	113回

今後の課題と対応方針

地域クラブ活動の拠点となる学校体育施設や公共スポーツ施設を利用しやすい環境を整えるため、施設の利用調整を行う体制を確立する必要がある。

また、モデル事業以外の部活動の活動場所も当然中学校となるので、拡大を進める中で、中学校との連携がより必要となると考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- (1) 地域移行がスムーズに進まない部活動への取り組み
- (2) 文化部の地域移行への方向性
- (3) 教員の兼職兼業への検討
- (4) 基本的な方向性
- (5) 地域移行のロードマップ

取組の成果

(1) (2) 今年度も町広報等で指導者を募ったところバスケットボールと美術の応募があり、町教委・中学校の面接を経て来年度モデル事業に加えることとなった。

(3) 和歌山県の視察研修で得た事例を参考に検討を進めることになった。

(4) 2回の検討協議会で令和7年度の方角性とそれ以後の町としての方向性の概要を検討できた。

(5) 基本的な方向性に基づいて、児童・生徒や保護者に移行スケジュールを示すためにモデル事業の成果と課題を見極め来年度に作成したい。



指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性

まずは指導者資格を保有し、この事業への理解を持った指導者であることが基本となる。

・配置の工夫

職業や時間的な制約のある指導者もおられるので、中学校の意向も考慮しながら、お互いに無理のない曜日や時間帯とし、持続可能や配置を優先したい。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

今年度部活動顧問と指導者との懇談の場が持てた。部活動の現状や部員たちの練習などの情報交換を行うと共に、互いの指導方針やこの事業に対する思いなどを話し合うことができた。

また、中学校の顧問からは練習計画を地域指導者に毎月メール等で知らせ、地域指導者はその計画をもとに地域クラブの練習内容を組み立てることとなった。

今後の課題と対応方針

平日への移行については、現時点では課題も多く、まずは休日の移行を進める。また、やはり、本町では、今こそこの事業の取り組みで明確なゴールとロードマップを生徒や保護者に示すことが一番重要だと考えるので、来年度はその点を取り組みたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

基本的に指導者は公募して、面接などを経て中学校と教育委員会
で決定する。公募には「募集要項」に従って採用することとした。

取組の成果（イ）

登録された方から書類審査→面
接を行い、その後中学校に情報提
供し、希望条件が合えば中学校
長及び顧問で面接を行い採用決
定したら教育委員会で任用するよ
うにした。やはり、マッチングするこ
とが重要で、いずれもうまく運び、来
年度もバスケットと美術についてモ
デル事業に加えることとした。



取組事項（ウ）

基本的に検討協議会で基本的な方針を決定することとしている。メ
ンバーは町内スポーツ団体や指導者の代表や教育委員会で組織し、決
定されたことを常に委員と連携を取りながら事業を実施した。

取組の成果（ウ）

国、県、近隣市町の動向に関する
情報と本町の現状を報告する中で
委員からも新しい有益な情報を得
ることができるようになった。また、
コーディネーターが定期的に各クラ
ブの視察や指導者との情報交換
する中で、指導者の信頼も得るこ
とができた。



今後の課題と対応方針

実際にモデル事業を始めてみて、4つの地域クラブが生徒たちにとって有
意義で有益な取り組みになっているかは、その事業の内容が大きなポイントと
なるので、定期的な現状把握と参加者へのアンケートなどで実態を探りた

い。また、このモデル事業の情報を児童・生徒及び保護者に随時発信する
とともに参加している生徒の希望や思いが受け皿団体に伝わり、共に地域
クラブを育てていく内容にしたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

「希望する生徒はいるが部活動そのものがない」、「部活動はあるが、専門的な指導ができる顧問がない」、「部員数が少なく十分な練習ができない」といった課題に対して、県内の各市町でも様々な実践例が進められているが、本町ではまず、①「平日の部活動」は学校で、②「休日の部活動」は、地域連携を目指すということを基本にしながら、地域の施設で地域の指導者による持続可能なクラブを来年度も中学校と連携してモデル事業の拡大を図っていくことが生徒や保護者にとってもわかりやすく、教師の負担軽減も計画的に実現できると考える。

上記①については、部活動のある曜日とない曜日で時間割の工夫をするなど取り組みで一斉下校時間を設定し、部活動の時間や教員の業務時間の確保するなどの工夫を中学校で検討してもらおう。②については、休日の部活動が完全に地域へ移行するという最終的な年度をモデル事業の成果や中学校の方針を十分考慮して決定していくものとする。

●成果の評価

周知不十分である点はあるものの、議会での質問や指導者の応募があったことは、今年度の成果と言える。また、モデル事業への部活動の生徒の参加が徐々であるが増加している。この大きな改革に本町も積極的に取り組んでいることに理解を示す関係者も増えつつあるが、中学生や中学校にとってどの方向性が望ましいのか、実証事業3年目に向けて丁寧に検討したい。

●今後に向けて

(1) 中学校の部活動の地域連携から地域展開の方向性

現状維持として4つにモデル事業はさらに展開を図る。また、来年度はバスケットボールと美術のモデル事業を加え、どのクラブも地域クラブとして発展していける具体的な手だてを見出していく。

(2) スポーツ少年団中学部の方向性

小学生が中心の活動をそのまま中学生が継続できるような仕組みを考えていく。平日は難しくても、週末は学校に施設を使い、地域の指導者や保護者も参加すれば小中学校を通じて活動を継続することは可能と考える。

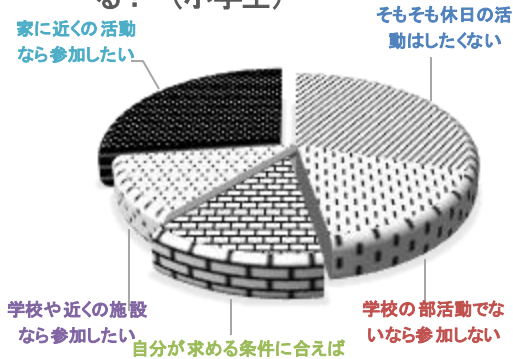
(3) 総合型地域スポーツクラブとの融合性の方向性

受け皿となる運営団体は、中学生の地域における新たなスポーツ活動の環境を整備する役割があることから、公益性が高く活動基盤や財政基盤が安定していることが望ましい。総合型地域スポーツクラブは部活動の受け皿という目的で活動はしていないが、中学生に限らずジュニアスポーツ活動の場にししたいと本町の総合型地域スポーツは考えている。ただし、組織をささえる人材と財源の課題を抱えているのも現実である。今後は、町当局と協議の中で「本町の地域移行の構想」の一つとして「事業委託費」という方法も検討する。

2.実証内容と成果②

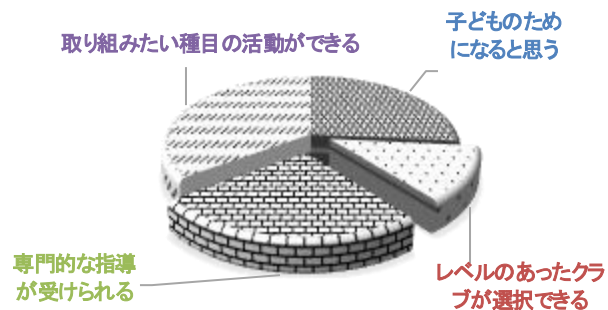
アンケート結果・参加者の声

①どんな地域クラブなら参加する？（小学生）



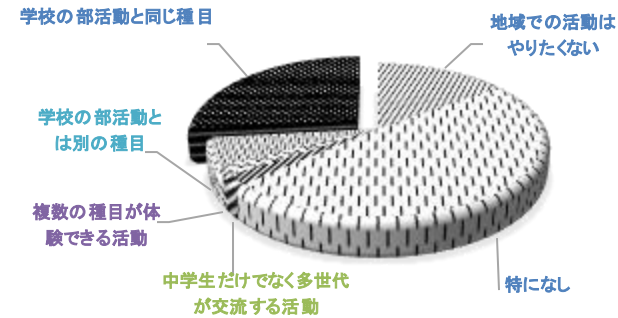
活動場所が校内や学校付近で自分の条件に合うことなど安心して参加できることを望む児童が多い。

③地域移行に賛成の理由は？（小学生保護者）



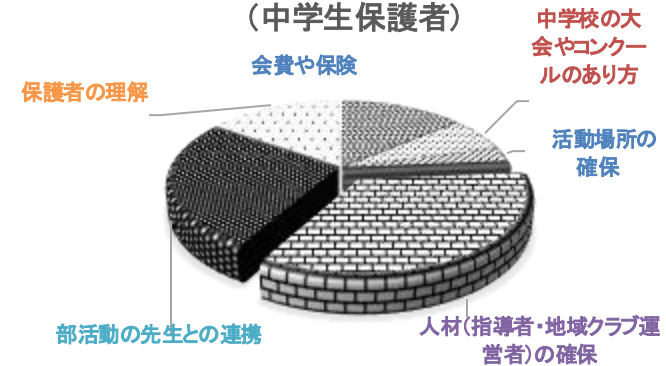
地域移行の賛成の理由として、専門的な指導が受けられることや種目の選択肢が増えることに期待する声が多い。

②休日はどんな地域クラブがいい？（中学生）



もし地域クラブへ参加するなら、中学校と同じ種目活動を希望している生徒が多い。

⑨地域移行への課題は？（中学生保護者）



中学生の保護者が課題に感じているのは、指導者の確保や部活動の先生との連携が圧倒的に多い。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

豊郷町の小学生・中学生の皆さん、保護者の皆さんへ

豊郷町 地域クラブ

初めてだけど やってみたい...



楽しんで やりたい...

もっと上手く やりたい!!

— 地域クラブで思いを叶えよう —

今やっている学校部活動とは違う種目を希望することもできます

日本全国で 学校 から 地域へ移行が始まっています

中学校で行われている部活動とは別に、地域の方が中心となって行う、新しい形の地域クラブです。地域クラブは主に休日の活動ですが、指導者によっては平日の活動もあります。

豊郷町では「4つのモデル事業」が令和6年度から始まりました。休日の部活動が「地域クラブ」へ段階的に移行していきます

サッカークラブ

剣道教室クラブ

スポーツスクールクラブ
(多種目スポーツ)

バレーボールクラブ



活動時間：(日)長期3時間程度
(火)長期2時間程度
活動場所：(日)豊小グラウンド
(火)豊小グラウンド
指導者：JFA公認サッカー指導者

活動時間：(土)夜間1時間程度
活動場所：豊郷町武道館
指導者：スポーツ少剣道教室指導者
(有資格者)

活動時間：(土)午後3時間程度
活動場所：豊郷町体育館・県内スポーツ施設
指導者：各種目専門指導者及び各インストラクター

活動時間：(木)夜間2時間程度
活動場所：豊日中学校体育館
指導者：JPO公認バレーボール指導者

Q. どうして地域移行するの？

A. 近畿圏内の中学校でも少子化による生徒数の減少などから、やりたい部活が学校になかったり、部員が足りずに試合に出られなかったりするなど、学校部活動の継続が難しくなっています。また、働き方改革により教職員の負担軽減が求められると共に地域と連携しつつ持続可能な活動体制づくりを進めながら移行活動を行っています。豊郷町では、準備が整った部活動からそれぞれのスタイルで地域クラブへ移行していきま

「スポーツスクール」
「地域クラブ」
「移行活動」
「移行先」

令和7年度新しく開設を予定している種目は、女子バスケットボールクラブと美術クラブです！

お問合せ：豊郷町教育委員会学校教育課 部活動地域移行担当 電話 0749-35-8131
※直接活動されている場所をお尋ねになり、見学していただいても結構です。
※また、卓球・野球・情報(PC)・吹奏楽の指導をお願いできる方がおられたらご連絡ください。

【児童・生徒への参加啓発チラシ】

豊日中学校の生徒の皆さん



豊郷剣道教室の案内



剣道をはじめませんか 剣道をやってみませんか

豊郷町では令和6年4月から、3つの地域部活動をモデル事業としてスタートすることになりました。

剣道は生涯スポーツです。剣道を習うのは何時から始めても遅くはありません。

「礼に始まり礼に終わる」心身ともに鍛えるスポーツです。練習をしていく中で、あいさつや礼儀も学べます。今までに、皆さんの先輩で、中学生から始めた方はたくさんおられます。やる気がある方・興味がある方はいつでも見学できますので、一度見学に来てください。お待ちしております。

【活動内容】 毎週土曜日 19時から 豊郷武道館

中学校部活動申込書

氏名： 年 組 名前
生年月日： 年 月 日 生まれ

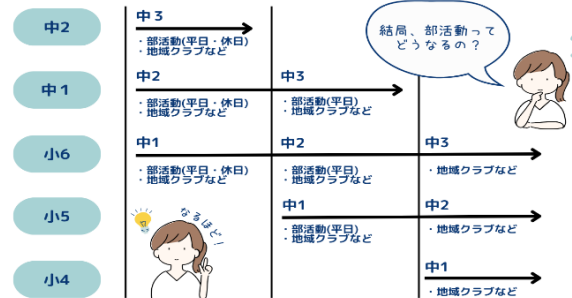
保護者氏名： _____
住所： _____
緊急連絡先： _____

【剣道クラブの募集案内】

豊郷町の学年ごとの地域移行スケジュール

新しい挑戦が始まるこの瞬間に私たちのビジョンと期待を共有し、ともにこの変革を成功へと導いていけたらと考え、この時期に各学年の移行スケジュールを作成してみました。

令和6年(現在の学年) 令和7年 令和8年 令和9年



★上記スケジュールはあくまでも目安であり、学校・地域の状況・部活動の種目によって異なります。

中2	現在所属している部活動で平日と休日に活動できます。地域クラブなどの活動を選択することもできます。
中1	中2まで現在の活動はできます。中3になると部活動は平日のみの活動となり、休日は地域クラブへの参加となります。地域クラブへの参加は自由となります。
小6	入学時に部活動に所属した場合、中2になると部活動は平日のみとなり、休日は地域クラブへの参加となるが、入学時から部活動に入部せず、地域クラブを選択することもできます。
小5	入学時に部活動は平日のみとなり、休日は地域クラブに参加するが、参加しないでも自分の得意な活動を選択することになります。また、入学時から入部しないで地域クラブへ参加できます。
小4	入学時すでに部活動はありませんので、地域クラブの活動に参加するか、自分の時間を有効活用するかを選択できます。

【部活動の地域移行のロードマップ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【剣道クラブの様子】



【サッカークラブの様子】

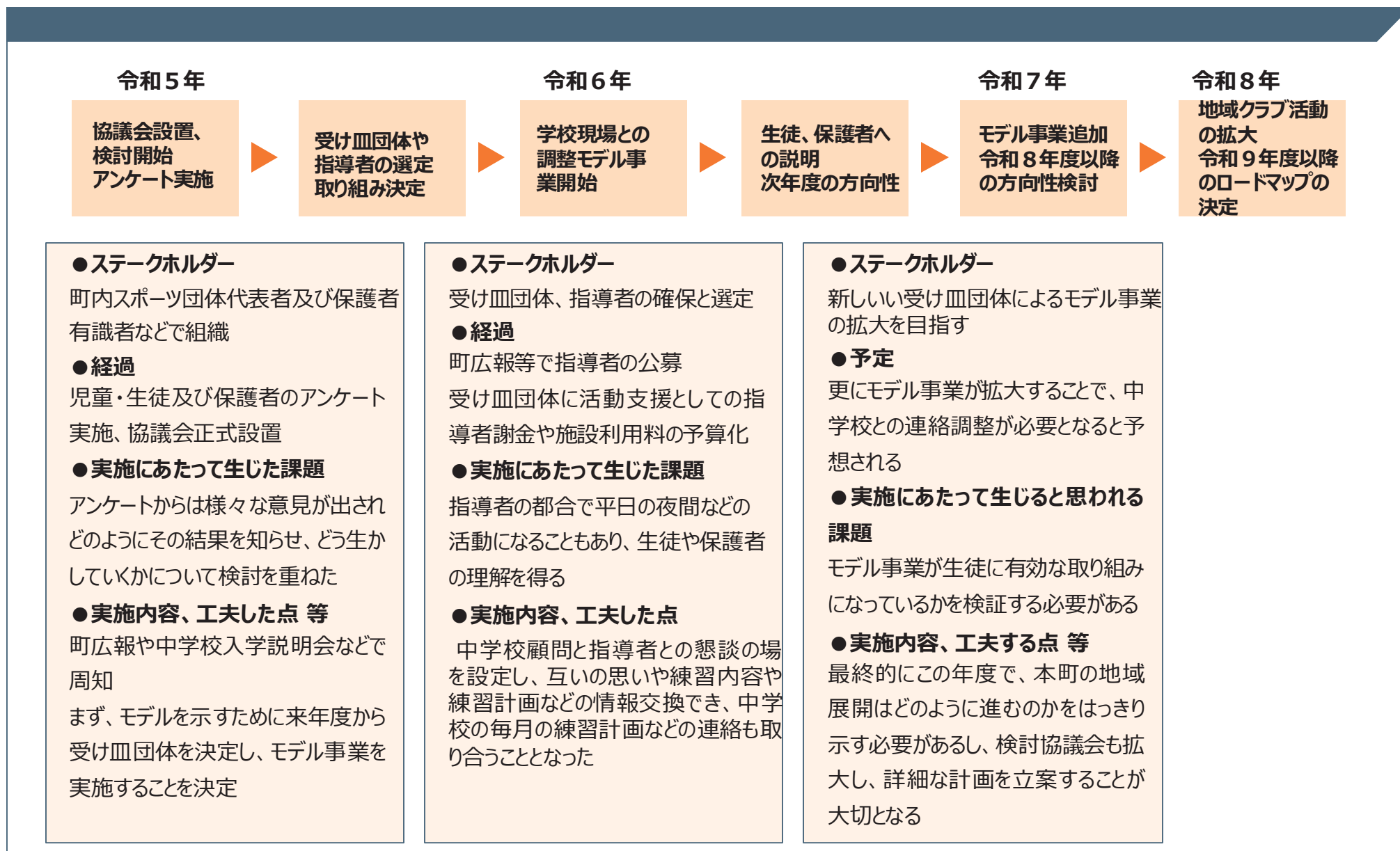


【バレーボールクラブの練習の様子】



【スポーツスクールのダンス練習の様子】

2.実証内容と成果



豊郷町教育委員会部活動改革スケジュール

2024年度 (R6) → 2025年度 (R7) → 2026年度 (R8) (R9)

平日の部活動は現状どおり継続し、令和8年度までの移行した地域クラブを見直す

豊郷町教育委員会

- ・検討協議会の開催
- ・地域移行方針策定
- ・児童生徒、地域、中学校等への周知
- ・調査結果の分析
- ・受け皿団体と協議
- ・モデル事業開始
- ・指導者等の確保

4つのモデル事業（サッカー・剣道・バレー・スポーツスクール（NPO法人アザックとよさと））を実施



バスケ・美術を追加

- ・指導者研修と指導心得の改訂版を策定
- ・モデル試行状況を確認
- ・次年度地域移行部活動方向性の決定

卓球、テニスで可能な部活動の地域移行
野球は合同部活模索

情報・吹奏楽検討

土日の部活動は削減

生徒の負担を少なくする予算的措置の検討

令和9年度以降のロードマップ策定

休日の部活動は完全に地域移行